SONY®

4-143-833-**01**(4)

ホームシアターシステム

取扱説明書

HT-CT500

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　**電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

3～5ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。
6ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

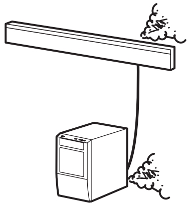
設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



➡

1. **電源を切る**
2. **電源プラグをコンセントから抜く**
3. **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険
この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告
この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意
この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



⚠警告

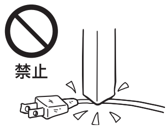


下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないで下さい。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないで下さい。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないで下さい。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

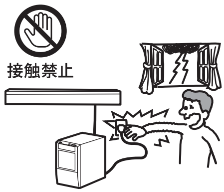
火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。



⚠注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

上に乗ったり、座ったりしない

落ちてけがの原因となることがあります。また、本機を傷める原因となります。



ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないで下さい。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



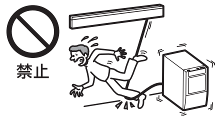
電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いて下さい。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



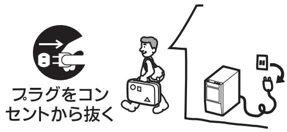
コード類は正しく配置する

電源コードや AV ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

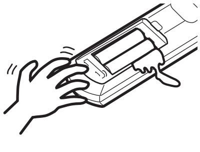
⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。

接触禁止



液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする

➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

指示



➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

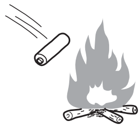
禁止



電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

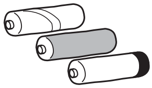
禁止



指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

禁止

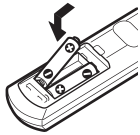


＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

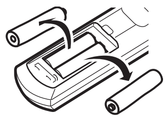
指示



使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

指示



使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- 毛足の長いじゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）
- 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

設置時のご注意

本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機背面の通風孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。通風孔を絶対にふさがないでください。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。
特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本機のお手入れのしかた

キャビネットの汚れは、柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15〜30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。

目次

次のページへつづく

その他

この取扱説明書について

この取扱説明書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。
リモコンと同じなまえの本体のボタンも同じように使えます。

商標について

本機はドルビー*1デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS*2デコーダーを搭載しています。

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

*2 米国パテントナンバー：5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,487,535 の実施権、及び米国、世界各国で取得済み、または出願中のその他の特許に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDTS, Inc.の登録商標です。DTSロゴ及び記号はDTS, Inc.の商標です。© 1996-2008 DTS, Inc. 無断複写・転載を禁じます。

本機は、High-Definition Multimedia Interface（HDMI™）技術を搭載しています。

HDMI、HDMIロゴ、及びHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または、登録商標です。

本製品に搭載されているフォントの書体「新ゴR」は株式会社モリサワより提供を受けており、これらの名称は同社の商標であり、フォントの著作権も同社に帰属します。

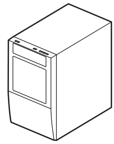
“ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“x.v.Color”および“x.v.Color”ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

“プレイステーション”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商標です。

同梱品を確かめる

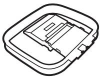
- サブウーファー（1）



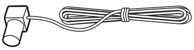
- スピーカー（1）



- AMループアンテナ（1）



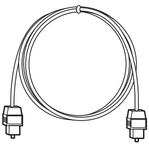
- FMワイヤーアンテナ（1）



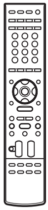
- スピーカーコード（1）



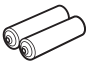
- 光デジタルコード（2.5 m）（1）



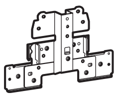
- リモコン（RM-ANP039）（1）



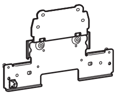
- 単3乾電池（2）



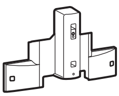
- WS-CT500EB
  - 取り付け金具A（1）



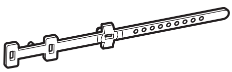
  - 取り付け金具B（1）



  - リアカバー（1）



- クランパー（1）



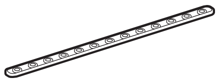
- ネジ（大：+PSW5 × 12 mm）（7）



- ネジ（小：M3 × 8 mm）（4）



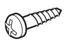
- 転倒防止用ベルト



- 転倒防止用ベルトのネジ（+PSW4 × 20 mm）（1）



- 転倒防止用ベルトの木ネジ（M3.8 × 20 mm）（1）



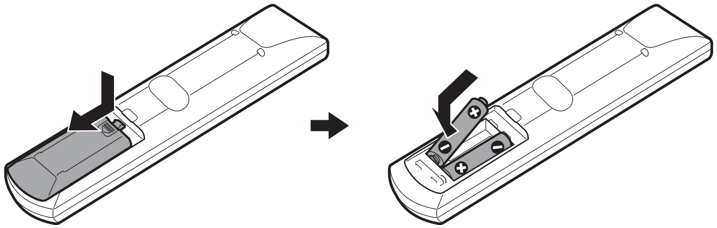
- 取扱説明書（本書）（1）
- 保証書（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）

ちょっと一言

- 取り付け金具Bは、フロアスタンド（SU-FL71M）（別売）と組み合わせて設置するときに使います。

リモコンに電池を入れる

付属のリモコンを使って、本機を操作することができます。＋と－の向きを合わせて、単3乾電池（付属）2個を入れてください。リモコンはスピーカーや本機の表示窓の🅁に向けて操作してください。

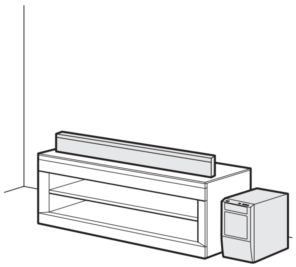


ご注意

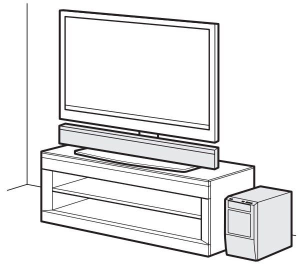
- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使った乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや破裂を避けるために乾電池を取り出してください。

準備1：本機を設置する

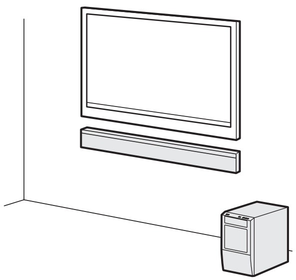
下図は本機とスピーカーの設置のしかたの例です。スピーカーはテレビスタンドに取り付けたり、壁にかけたりできます。



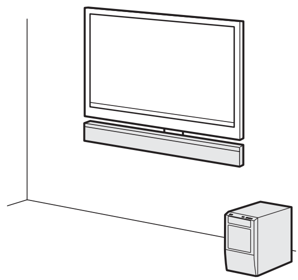
スピーカーをラックなどの上に設置する。



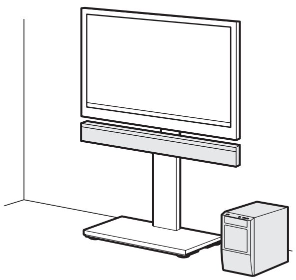
詳しくは「スピーカーをテレビスタンドに取り付ける」（18ページ）をご覧ください。



詳しくは「スピーカーを壁に取り付ける」（30ページ）をご覧ください。



詳しくは「スピーカーとテレビを壁にかける」（24ページ）をご覧ください。



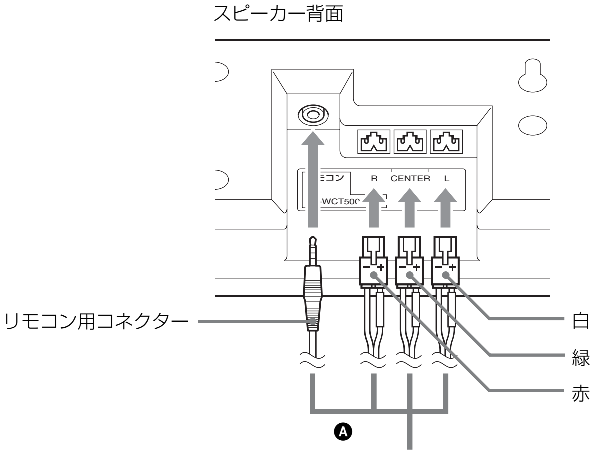
フロアスタンド（別売）を使って、壁によせて設置する。詳しくは「スピーカーを取り付けたテレビをフロアスタンドに取り付ける」（27ページ）をご覧ください。

ご注意

- サブウーファーの背面にものを置いて、通風孔をふさがないでください。
- 本機のグリルネットをふさがないでください。

スピーカーコードをスピーカーにつなぐ

スピーカーコードのコネクターとチューブはスピーカーの種類に合せて色分けされています。スピーカーコードは、コネクターと同じ色のスピーカー端子につないでください。
リモコン用のコネクターはリモコン端子につなぎます。



Ⓐスピーカーコード（付属）

ご注意

- スピーカーやテレビを壁に取り付けるときは、スピーカーにつないだコードに足をひっかけないよう注意してください。

次のページへつづく

本機のスピーカーをテレビのスタンドやフロアスタンドに取り付けるには

お客様へ

本製品の取り付けには、確実な作業が必要になります。必ず、販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。取り付け不備や、取り扱い不備、対応モデル以外でのご使用による事故、損傷については、当社では責任を負いません。

安全のために

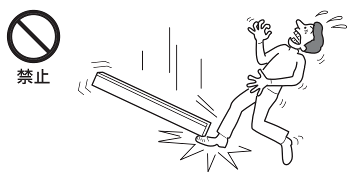
ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。
しかし、まちがった使いかたをすると、火災・感電・転倒・落下などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために安全のための注意事項を必ずお守りください。

⃠ 警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電・転倒・落下などにより 死亡や大けがの原因となります。

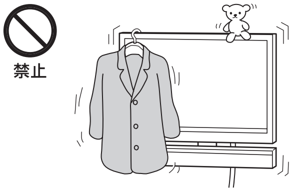
製品を落とさない、また落下の恐れのある場所に置かない

- 取り付け工事は専門業者に依頼し、取り付けのときはお子様が近づかないようにしてください。
- 専門業者以外の人が取り付けを行なうと、製品が落ち、打撲や骨折など大けがの原因となります。
- 専門業者以外の人が移動や取りはずしを行うと、製品が落下したりして、けがや破損の原因となることがあります。また、移動や取りはずしは、必ず2人以上で行ってください。
- 本機のスピーカーを取り付けたあとはネジなどをはずさないでください。製品が落ちて、けがや破損の原因となります。
- 掃除やお手入れのときは、力をかけたりしないでください。製品の落下によるけがや破損の原因となります。
- 強度の弱い壁や、平面ではなかったり垂直ではない壁に取り付けた場合、製品の落下によるけがや破損の原因となります。
- スピーカーまたはスピーカーを取り付けたテレビは、壁にしっかり取り付けないと、製品の落下によるけがや破損の原因となります。



製品にものを置かない

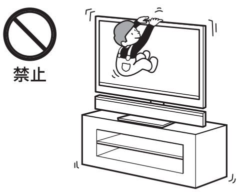
- 製品にものを置かないでください。落下して、大けが、死亡などの原因となることがあります。





製品に寄りかかったり、ぶら下がったりしない

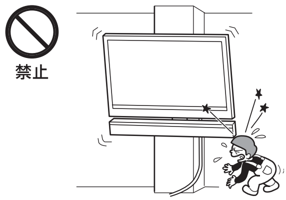
- 製品が転倒したり、落下して、大けが、死亡などの原因となることがあります。





取り付け場所に注意する

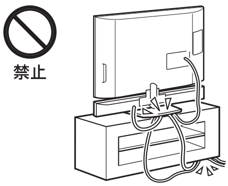
- 壁掛けユニットを、柱などの製品がはみ出してしまうような場所には取り付けないでください。身体や物などがぶつかってけがや破損の原因となります。
- 製品を雨や湿気にさらさないでください。水が入ったり、ぬれたりすると、火災や感電の原因となります。
- 湿気やほこり、湯気の多い場所、機械的振動の多い場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。
- 火のついたロウソクや燃えやすい物を近くに置かないでください。火災を防止するために、製品から離れた所に置いてください。
- エアコンの上や下には製品を取り付けないでください。送風などで直接、風が当たり続けたり、水もれによってぬれたりすると、火災や感電、故障の原因となることがあります。

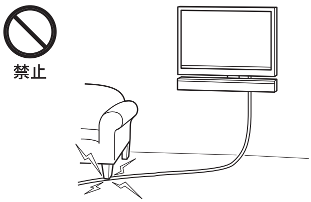


次のページへつづく

電源コードおよび接続ケーブルをはさまないようにする

- 電源コードおよび接続ケーブルを壁面にはさんだり、無理に曲げたり、ねじったりすると、芯線が露出したり、ショート、断線して、火災や感電の原因となります。
- 製品を動かすときは、電源コードおよび接続ケーブルを踏まないようにしてください。電源コードおよび接続ケーブルに傷がついて火災や感電の原因となります。





製品の通気孔をふさがない

- 製品の上に布をかけて通気孔をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



電源コードおよび接続ケーブルを足で引っかけない

- 転んだり、製品が転倒したりして、けがの原因となることがあります。



⃠ 注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

対応モデル以外のものに取り付けない

- 本機に付属の取り付け金具は対応モデル専用です。対応モデル以外のものに取り付けると、落下によるけがや破損の原因となることがあります。
- 製品の分解・改造は行わないでください。
- 熱いものを直接製品に置かないでください。熱により変色、変形することがあります。

テレビに本機を固定する

- 本機のスピーカーとテレビをしっかり固定してから、取り付けを行ないます。スピーカーを取り付けたテレビをラックに置いたり、壁にかけたり、フロアスタンドに取り付けたりしてください。固定しないと、本機のスピーカーとテレビが転倒したり、落下して、けがの原因となることがあります。

体重をかけたり、硬いものをぶつけない

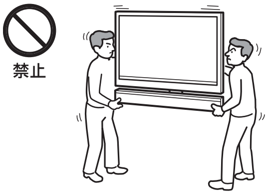
- スピーカーをテレビのスタンドに取り付ける際や、スピーカーを取り付けたテレビをフロアスタンドに取り付ける際には、それらのスタンドに手をついて体重をかけたり、ドライバーなどの固いものをぶつけたりしないように注意してください。

スピーカーを取り付けたテレビを動かすときのご注意

無理に動かそうとすると、腰を痛めたり、足をけがしたりする原因になりますので、下記のことをお守りください。

- スピーカーを取り付けたテレビを動かすときは、必ずサブウーファーや、接続機器やコード類をはずしてから、2人以上で行ってください。

- 取り付けたテレビスタンドやフロアスタンドを動かすときは、手足を底板にはさまないように注意してください。
- 取り付けたテレビスタンドやフロアスタンドを引きずらないでください。底面の部品がはずれて、床に傷がつくおそれがあります。
- 取り付け金具を使ってテレビと本機のスピーカーを取り付けた状態のとき、本機のスピーカーを持って動かさないでください。けがや破損の原因となることがあります。



設置上のご注意

- 組み立てるときは、床に傷がつくのを防ぐため、梱包材や布などを敷いてください。
- 設置場所は、堅くて平坦な床面にしてください。
- 2人以上で行ってください。1人で行うと腰を痛めたり、けがの原因となることがあります。
- 設置するときは、お子様が近づかないようにしてください。

組み立て手順に従って、しっかりと組み立てる

- ネジがゆるんでいたり抜けていると、本機のスピーカーが傾いて転倒し、落下による大けがや破損の原因となることがあります。
- 製品を組み立てるときや、取り付けるときには、手や指を傷つけないようにご注意ください。

壁にかけて使用するときのご注意

- 壁に製品を長期間取り付けてご使用されたときは、壁の材質によっては、製品の放熱により、背面や上面にあたる壁面が変色したり、壁紙がはがれたりすることがあります。
- 製品をいったん取り付けると、はずした場合に、壁にネジ穴の跡や取り付け跡が残ります。
- 雑音電波などの影響がでない場所などを事前に設置業者の方とご確認のうえ、工事を始めてください。

次のページへつづく

スピーカーをテレビスタンドに取り付ける

次のテレビ（別売）にスピーカーを取り付けることができます。

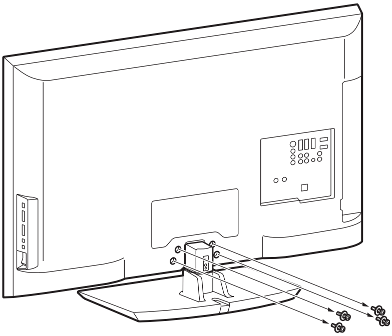
- KDL-40/46W5、KDL-40/46F5

テレビスタンドの形状はモデルによって異なりますが、次の手順でスピーカーを取り付けることができます。

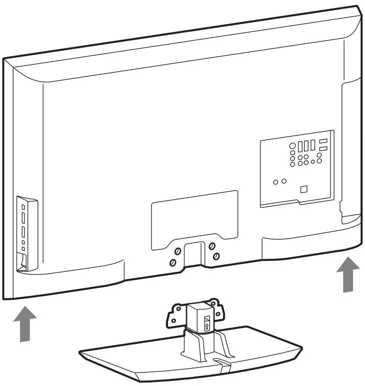
1 テレビのネジをはずす。

ご注意

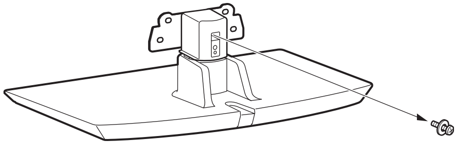
- テレビは、画面を傷つけないためにやわらかい厚手の布の上に、画面を下に向けて置いてください。



2 テレビをスタンドから取りはずす。

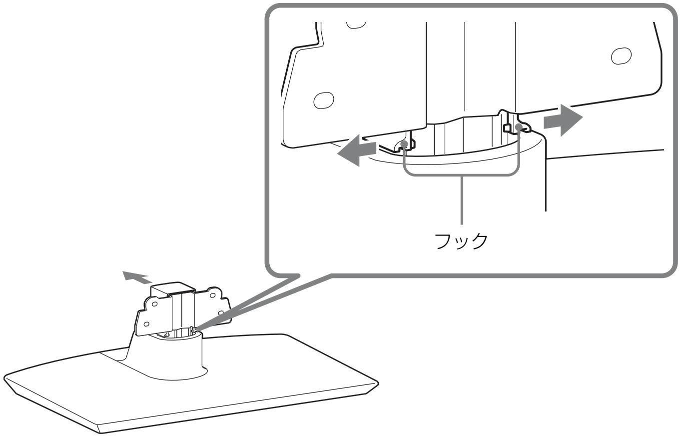


3 スタンドのカバーのネジをはずす。

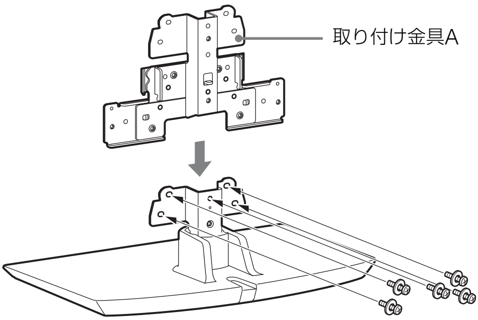


4 スタンドからカバーをはずす。

スタンド前方からカバーのフックを指で少し押し広げ、スタンド後方へカバーを押すように取りはずす。

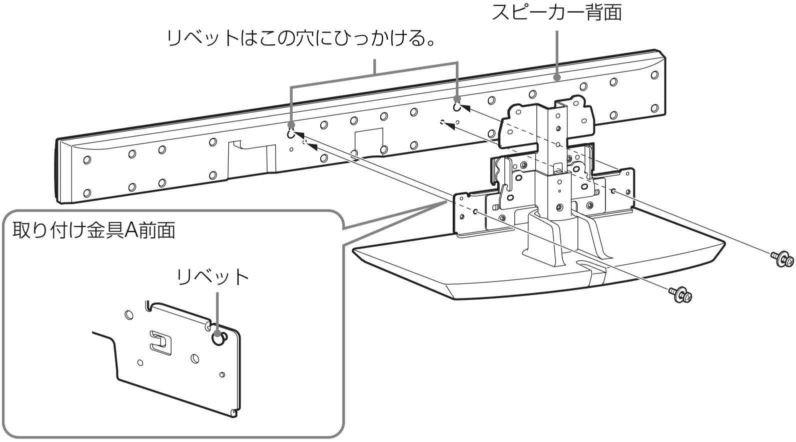


5 取り付け金具A（付属）をネジ（大：+PSW5 × 12 mm）（付属）でスタンドに固定する。

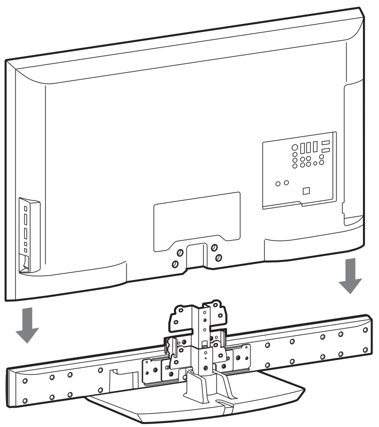


次のページへつづく

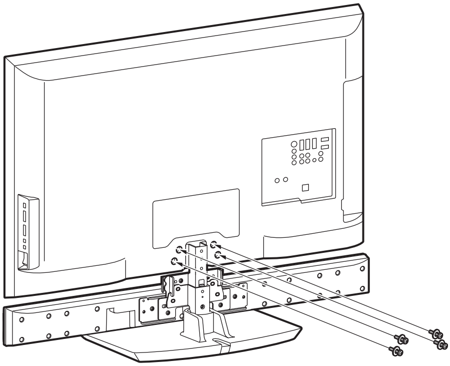
6 取り付け金具Aのリベットをスピーカー背面の穴にひっかけてから、ネジ（大：+PSW5 × 12 mm）でスピーカーを固定する。



7 テレビを取り付ける。



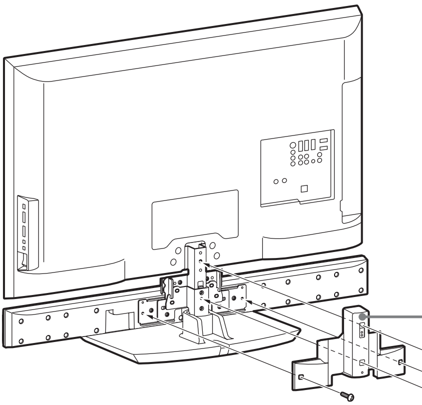
8 手順 1 ではずしたネジで固定する。



9 リアカバーをネジ（小：M3 × 8 mm）（付属）で固定する。

ご注意

- 取り付け金具を使ってテレビとスピーカーを組み合わせた状態のとき、スピーカーを持って動かさないでください。けがや破損の原因となることがあります。

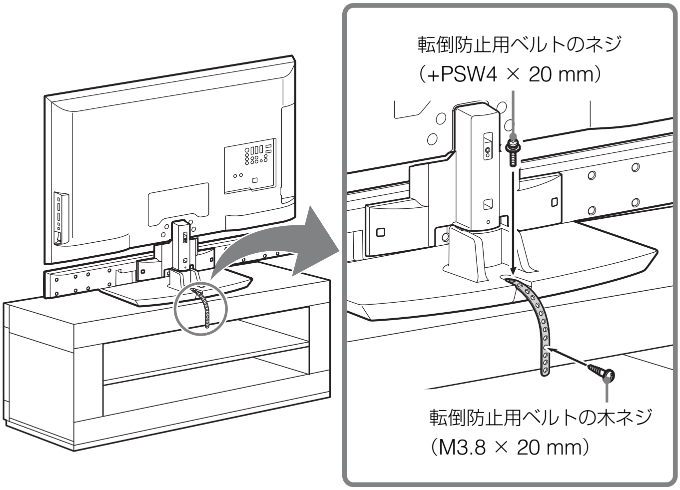


次のページへつづく

テレビに転倒防止の措置をする

テレビが転倒することを防ぐため、テレビを固定してください。

テレビに同梱されている転倒防止ベルトをすでにお使いの場合は、そちらをお使いください。



1 テレビをラックの中央に載せる。

2 転倒防止用ベルト（付属）をテレビにはめ込んで、ドライバーを使って、転倒防止用ベルトのネジ（+PSW4 × 20 mm）（付属）でしっかり留める。

3 転倒防止用ベルト（付属）を転倒防止用ベルトの木ネジ（M3.8 × 20 mm）（付属）でラックに固定する。

ご注意

- テレビとスタンドを取り付けるときに、指をはさまないようにしてください。

コードを束ねるには

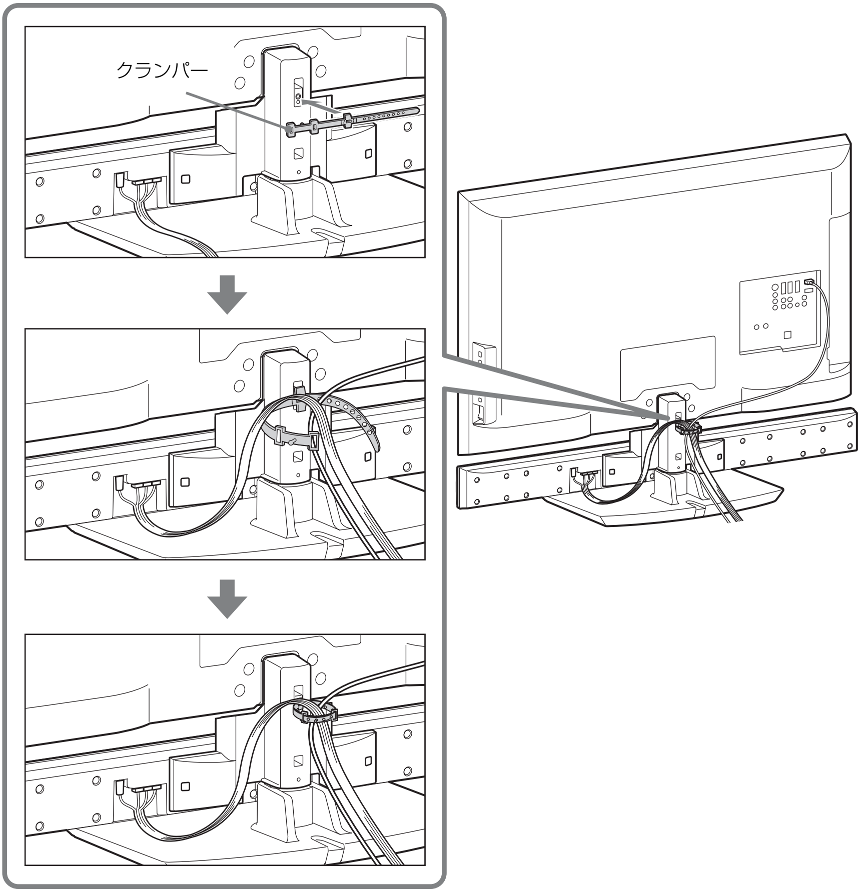
クランパー（付属）を使ってコードを束ねることができます。

ご注意

• 電源コードはクランパーで束ねないでください。

1 クランパー（付属）をリアカバーにとりつける。

2 コードをまとめ、クランパーで固定する。



次のページへつづく

スピーカーとテレビを壁にかける

次のテレビ（別売）にスピーカーを取り付けることができます。

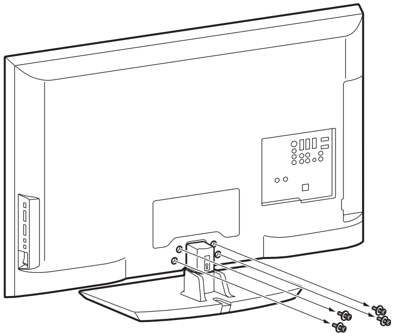
- KDL-40/46W5、KDL-40/46F5

テレビを壁に取り付けるには、テレビの取扱説明書をご覧ください。

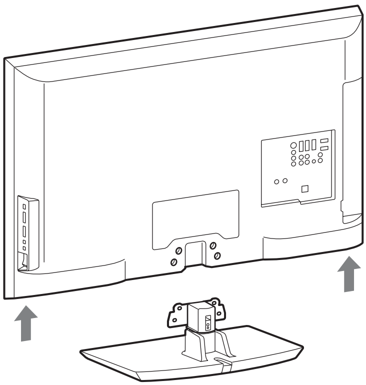
1 テレビのネジをはずす。

ご注意

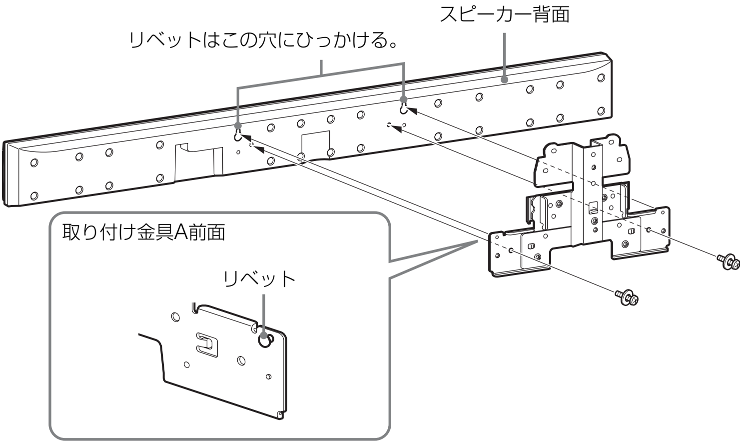
- テレビは、画面を傷つけないためにやわらかい厚手の布の上に、画面を下に向けて置いてください。



2 テレビをスタンドから取りはずす。



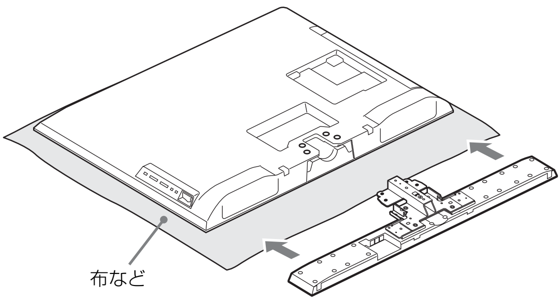
3 取り付け金具Aのリベットをスピーカー背面の穴にひっかけてから、ネジ（大：+PSW5 × 12 mm）でスピーカーを固定する。



4 テレビを取り付ける。

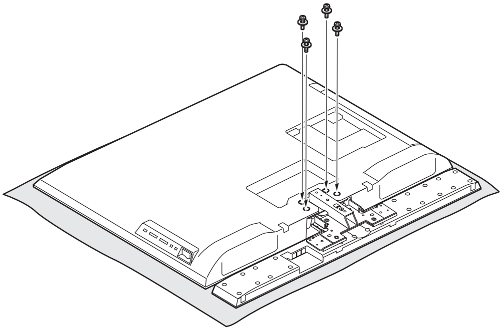
ご注意

- テレビは、画面を傷つけないためにやわらかい厚手の布の上に画面を下に向けて置いてください。



次のページへつづく

5 手順１ではずしたネジで固定する。



6 テレビを壁に取り付ける。

テレビを壁にかける手順について、詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 取り付け金具を使ってテレビと本機のスピーカーを取り付けた状態のとき、本機のスピーカーを持って動かさないでください。けがや破損の原因となることがあります。

スピーカーを取り付けたテレビをフロアスタンドに取り付ける

次のテレビ（別売）にスピーカーを取り付けることができます。

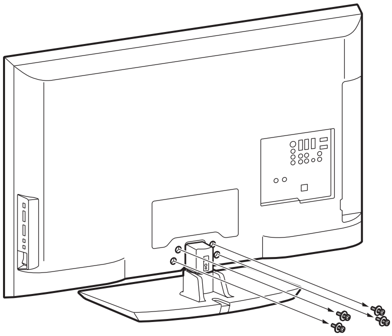
- KDL-40/46W5、KDL-40/46F5

テレビをフロアスタンドに取り付けるには、フロアスタンドの取扱説明書をご覧ください。

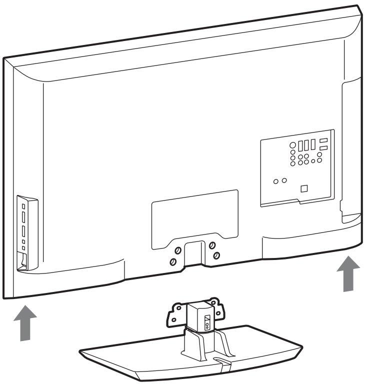
1 テレビのネジをはずす。

ご注意

- テレビは、画面を傷つけないためにやわらかい厚手の布の上に、画面を下に向けて置いてください。

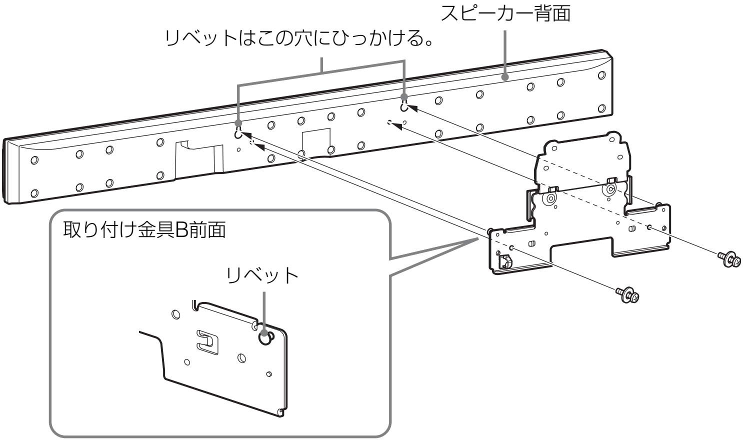


2 テレビをスタンドから取りはずす。



次のページへつづく

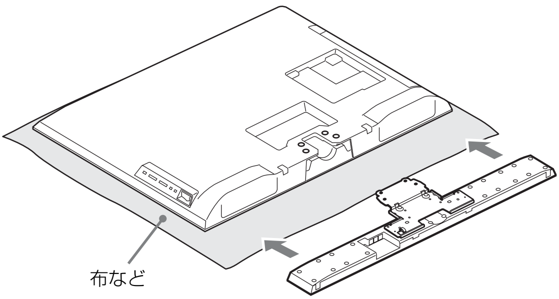
3 取り付け金具Bのリベットをスピーカー背面の穴にひっかけてから、ネジ（大：+PSW5 × 12 mm）でスピーカーを固定する。



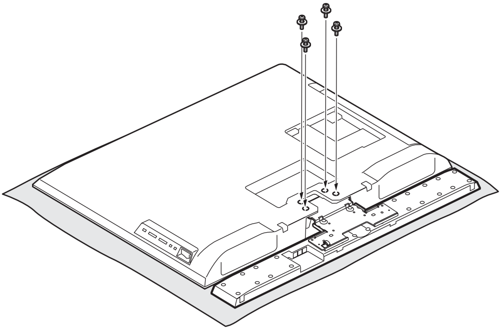
4 テレビを取り付ける。

ご注意

- テレビは、画面を傷つけないためにやわらかい厚手の布の上に画面を下に向けて置いてください。



5 手順１ではずしたネジで固定する。



6 テレビをフロアスタンドに取り付ける。

テレビをフロアスタンドにかける手順について、詳しくはフロアスタンド（SU-FL71M）の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- 取り付け金具B背面にはクランパーが取り付けられています。スピーカーコードを固定するときにお使いください。

ご注意

- 取り付け金具を使ってテレビと本機のスピーカーを取り付けた状態のとき、本機のスピーカーを持って動かさないでください。けがや破損の原因となることがあります。

次のページへつづく

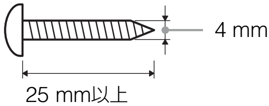
スピーカーを壁に取り付ける

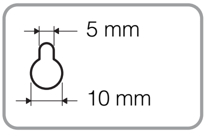
下記の手順でスピーカーを壁に取り付けることができます。

ご注意

- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。壁の材質によっては破損する恐れがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。サテライトスピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

1 スピーカー背面の穴に合う市販のネジを用意する。

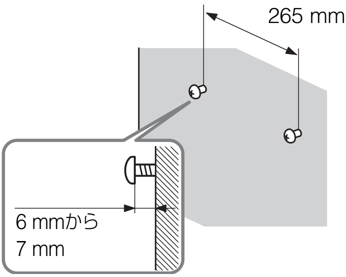




スピーカー背面の穴

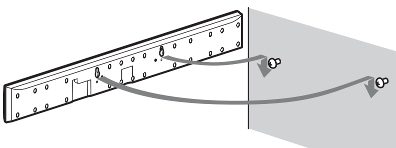
2 壁にネジをとめる。

ネジが壁から6 mmから7 mm突き出すようにとめてください。



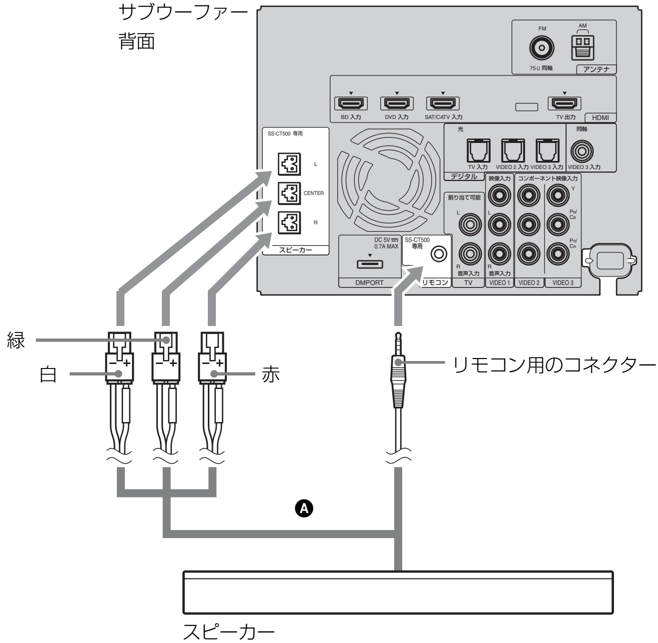
3 スピーカー背面の穴をネジにかける。

スピーカー背面の穴とネジの位置を合わせてから、2箇所同時に取り付けてください。



準備2：スピーカーをつなぐ

スピーカーコードのコネクターとチューブはスピーカーの種類に合せて色分けされています。スピーカーコードは、コネクターと同じ色のスピーカー端子につないでください。
リモコン用のコネクターはリモコン端子につなぎます。



Aスピーカーコード（付属）

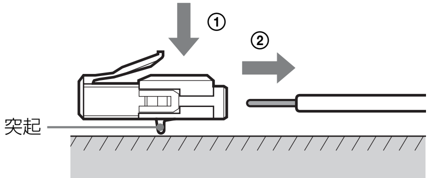
ご注意

- リモコン用のコネクターをリモコン端子につなぐときは、スピーカーとサブウーファーのどちらにリモコンを向けても操作することができます。リモコン用のコネクターがつながれていないときは、スピーカーはリモコンの信号を受信できません。

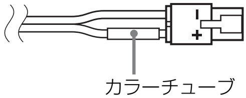
次のページへつづく

スピーカーコードを延長するには

スピーカーコードを必要な長さのコード（別売）に取り換えてください。
コネクターの突起を下に向け、平らな場所に押し当てながら（①）、スピーカーコードを抜きます（②）。



本機に付属のコネクターにつなぎなおすときは、スピーカーコードはスピーカー端子の極性に合わせて⊕は＋どうし、⊖は－どうしでつなぎます。カラーチューブがついているコードを＋につないでください。極性を間違えると、低音が不足したり、正しい音声が出ません。

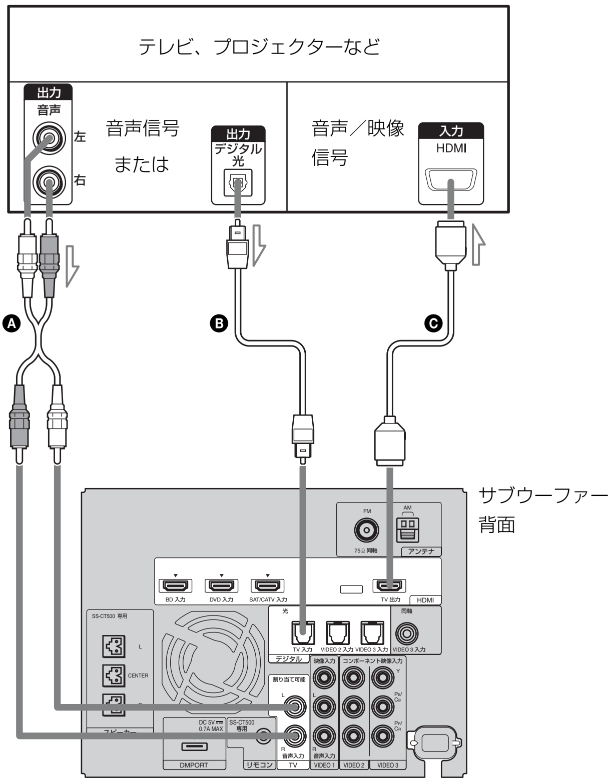


準備3a：HDMI端子がある機器をつなぐ

HDMIケーブルを使って、他の機器とつなぐことをおすすめします。
HDMIを使うと、簡単に高音質と高画質が楽しめます。
HDMI接続をしたときに便利なHDMI機器制御については、「ブラビアリンク機能とは？」（65ページ）をご覧ください。

テレビ、プロジェクターなどにつなぐ

テレビ、プロジェクターなどの音声を本機で聞くには、テレビ、プロジェクターなどの音声出力と本機の音声入力を、光デジタルコードまたはアナログ音声コードでつないでください。



Ⓐアナログ音声コード（別売）
Ⓑ光デジタルコード（付属）
ⒸHDMIケーブル（別売）

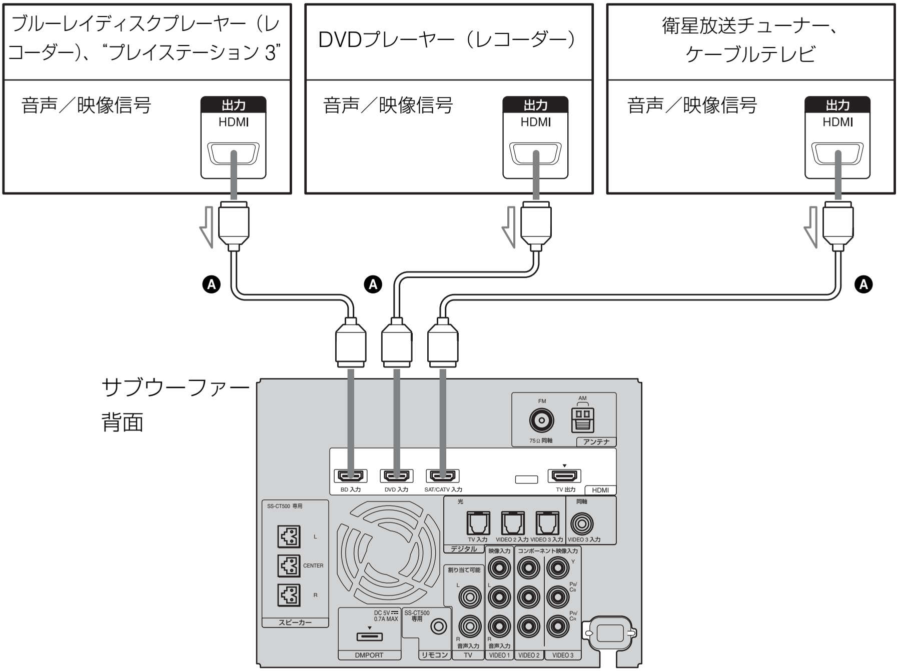
⇨：信号の流れ

ちょっと一言

- HDMI端子がないテレビの接続について、詳しくは「準備3b：HDMI端子がない機器をつなぐ」（36ページ）をご覧ください。

次のページへつづく

ブルーレイディスクプレーヤー（レコーダー）、“プレイステーション 3”、DVDプレーヤー（レコーダー）、衛星放送チューナー、ケーブルテレビなどにつなぐ



AHDMIケーブル（別売）

：信号の流れ

HDMI端子の接続について

- High Speed HDMIケーブルをご利用下さい。
  Standard HDMIケーブルの場合、1080pやDeep Colorの映像が正しく表示できない場合があります。
- 認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをおすすめします。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。
- つないだ機器の音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数を切り換えた場合、音声が途切れることがあります。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI TV出力端子の映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、つないだ機器の仕様をご確認ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。

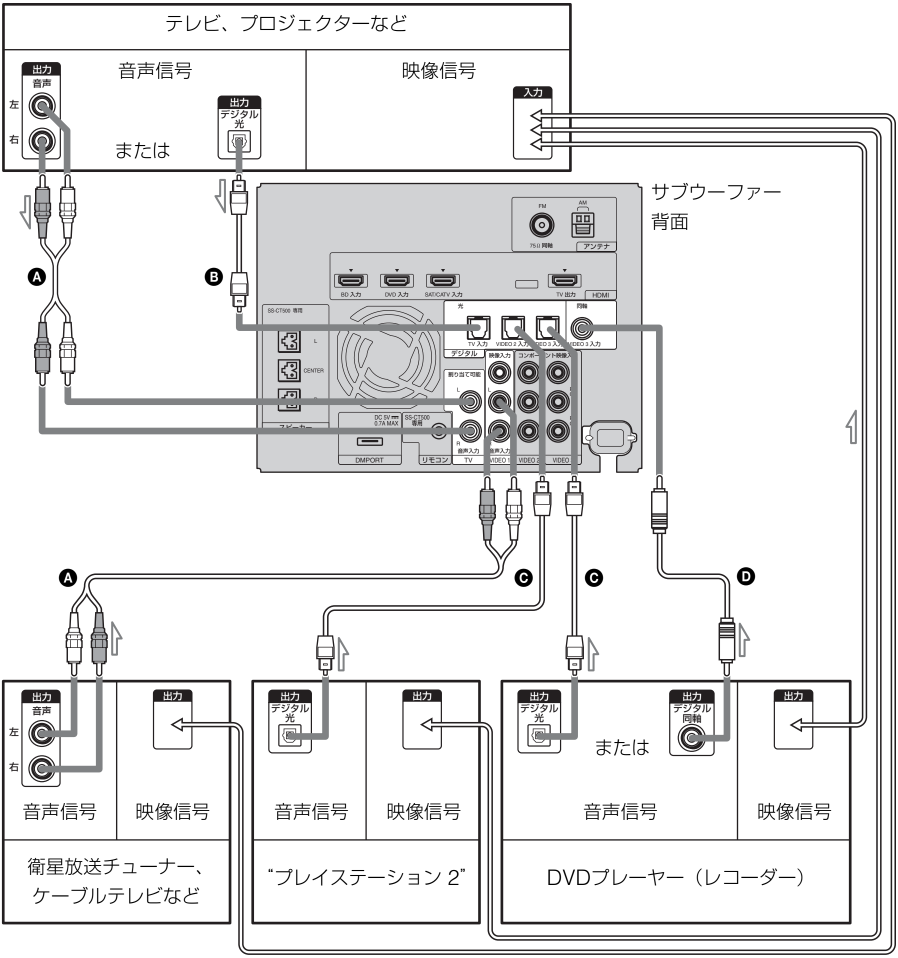
- TV、TUNERの入力を選んだときは、前回選んでいた入力の映像が表示されます。
- 本機はHDMI Version 1.3で拡張されたDeep Colorおよび“x.v.Color”伝送に対応しています。

準備3b：HDMI端子がない機器をつなぐ

DVDプレーヤー（レコーダー）、衛星放送チューナー、ビデオデッキなどで、HDMI端子がない機器も接続方法を組み替えてお使いいただけます。本機は映像信号をアップコンバートする機能を搭載しています。詳しくは、「映像信号をアップコンバートする」（42ページ）をご覧ください。

テレビ、プロジェクターなどにつなぐ

本機をHDMI端子がないテレビと他の機器につなぐときは、次の図のようにしてください。



：信号の流れ

Ⓐアナログ音声コード（別売）　Ⓑ光デジタルコード（付属）
Ⓒ光デジタルコード（別売）　Ⓓ同軸デジタルコード（別売）

ご注意

- お使いのテレビがHDMI端子を持っていない場合、お使いのテレビと他の機器を本機で使うときは、他の機器の映像端子はテレビの映像端子に直接つなぎ、音声端子は本機の音声端子につないでください。この接続はGUIメニューをテレビに表示することはできません。本機の表示窓を見ながら操作してください（93ページ）。
- 再生機器の映像がテレビに出力されているときは、本機の電源を切らないでください。本機の電源を切っているときは、再生機器の音声は出力されません。

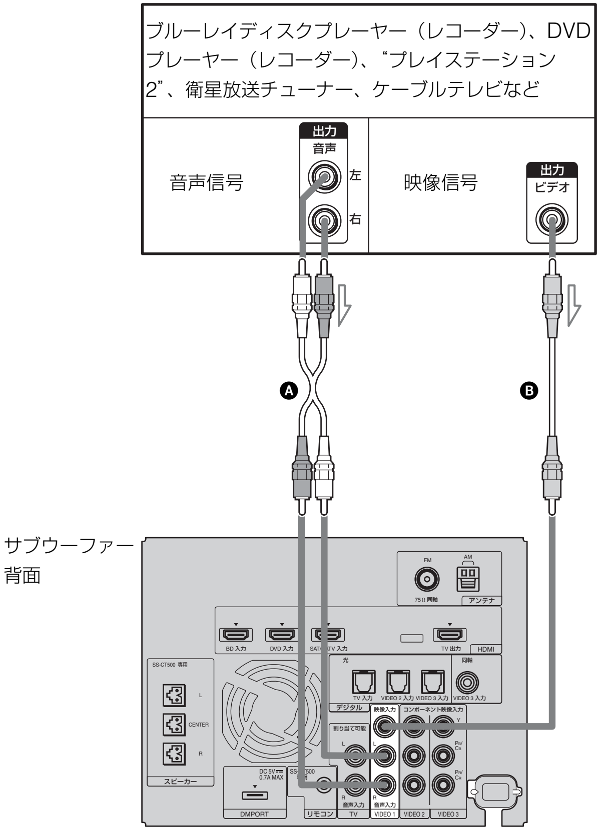
ちょっと一言

- 本機のスピーカーからテレビの音声を出力するには、
  - テレビの音声出力を、本機の光デジタルTV入力端子またはTV音声入力端子につないでください。
  - テレビの音声を消音してください。

次のページへつづく

他の機器をVIDEO 1入力端子につなぐ

次の図のように、アナログ端子の機器は本機につなぐことができます。

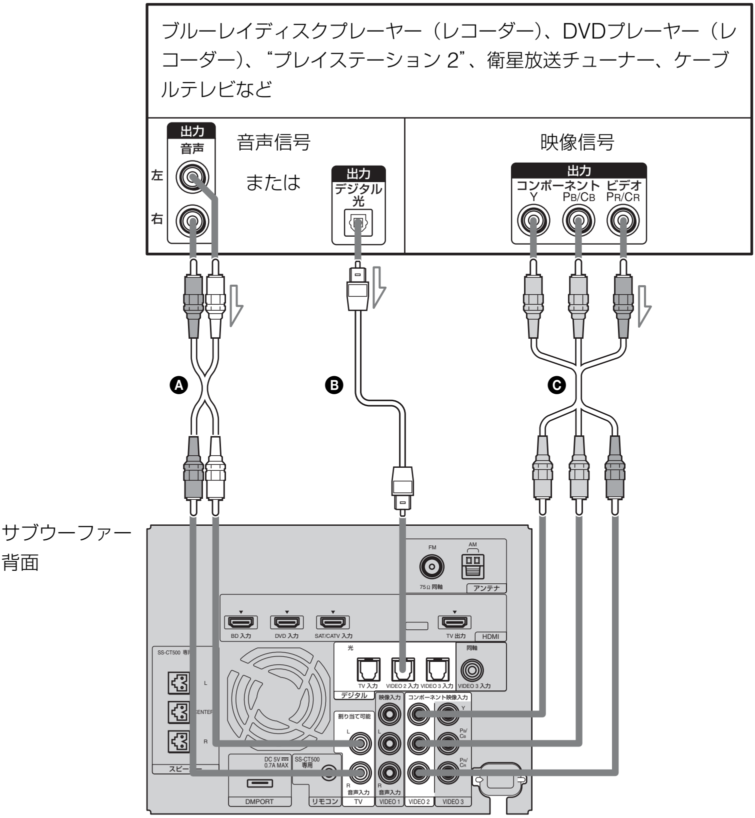


：信号の流れ

Ⓐ アナログ音声コード（別売）
Ⓑ 映像コード（別売）

他の機器をVIDEO 2入力端子につなぐ

次の図のように、本機と他の機器をVIDEO 2入力端子につなぐことができます。
本機のTV割り当て可能音声入力端子にテレビをつないでいない場合、この端子を他のアナログ音声の入力に割り当てることができます。詳しくは「音声入力端子に入力ファンクションを割り当てる」（88ページ）をご覧ください。



：信号の流れ

Ⓐ アナログ音声コード（別売）
Ⓑ 光デジタルコード（別売）
Ⓒ コンポーネントビデオケーブル（別売）

ご注意

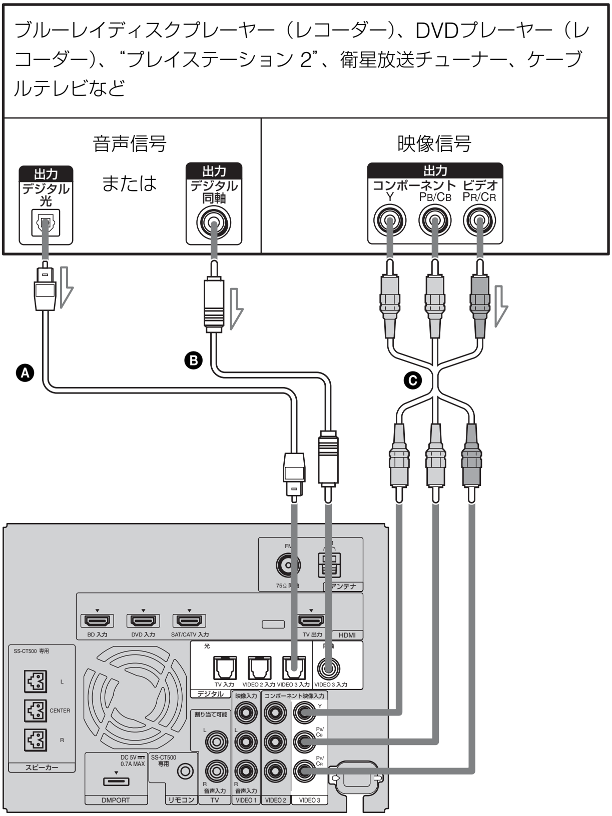
- 本機のデジタル光端子とTV割り当て可能端子に同時に接続した場合、デジタル光端子の信号が優先されます。

次のページへつづく

他の機器をVIDEO 3端子入力につなぐ

次の図のように、本機と他の機器をVIDEO 3入力端子につなぐことができます。
お使いの衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーなどに光デジタル出力端子がないときは、本機の同軸VIDEO 3入力端子につないでください。

サブウーファー
背面



：信号の流れ

Ⓐ 光デジタルコード（別売）
Ⓑ 同軸デジタルコード（別売）
Ⓒ コンポーネントビデオケーブル（別売）

ご注意

- 本機のデジタル同軸端子とデジタル光端子に同時に接続した場合、デジタル同軸端子の信号が優先されます。

つないだ機器の音声出力を設定する

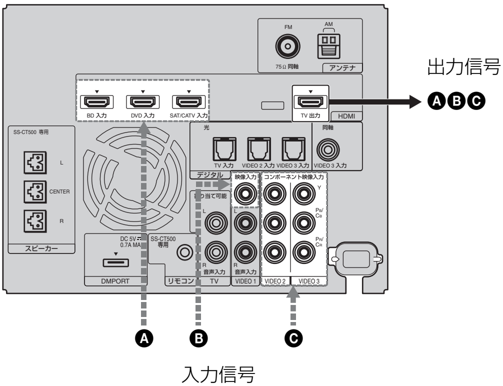
つないだ機器の音声出力設定によっては、2チャンネルの音声フォーマットとしてのみ、音声が出力されることがあります。この場合、マルチチャンネルの音声フォーマット（PCM、DTS、Dolby Digital）で音声を出力するように、つないだ機器を設定してください。音声出力の設定については、つないだ機器の取扱説明書をご覧ください。

映像信号をアップコンバートする

本機は映像信号をアップコンバートすることができます。
ビデオ信号とコンポーネントビデオ信号はHDMIビデオ信号として処理されます（本機より映像信号はHDMI TV出力端子からのみ出力されます）。
映像のアップコンバートについて、詳しくは「映像信号の入出力の関係」（43ページ）をご覧ください。

本機の映像の入出力信号の関係について

サブウーファー背面



出力端子 / 入力端子	HDMI TV出力
HDMI入力 A	入力信号と同じ種類の信号が出力されます。映像信号はアップコンバートされません。
ビデオ入力 B	本機を通してアップコンバートされた映像信号が出力されます。
コンポーネントビデオ入力 C	

コンバートされた映像信号についてのご注意

- ビデオデッキなどの映像信号は本機でアップコンバートされ、テレビに出力されます。映像信号の状態によっては、テレビの映像が横に乱れたり、何も映らないことがあります。
- TBC（タイムベースコレクター）などの映像補正機能を持つビデオデッキの場合、映像が乱れたり、何も映らないことがあります。この場合、映像補正機能をオフ（切）にしてください。

映像信号の入出力の関係

[Resolution]メニューについて詳しくは「アナログ映像信号を変換する」（89ページ）をご覧ください。

[Resolution]メニューの設定	出力信号／入力信号	HDMI TV出力端子
AUTO（初期設定）	コンポーネント映像	つないでいるモニターによって、解像度は自動的に設定されます。
	映像	
480/576p	コンポーネント映像	本機を通してアップコンバートされた映像信号が出力されます。
	映像	
720p	コンポーネント映像	
	映像	
1080i	コンポーネント映像	
	映像	
1080p	コンポーネント映像	
	映像	

ご注意

- つないだテレビが[Resolution]で選んだ解像度に対応していないときは、映像は正しく出力されません。
- 変換されたHDMI 映像出力信号は“x.v.Color”には対応していません。
- 変換されたHDMI 映像出力信号はDeep Color には対応していません。

準備4：アンテナをつなぐ

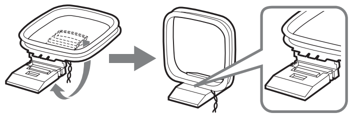
AMループアンテナをつなぐ

アンテナはAM放送を受信しやすい形状、長さになっています。はずしたり、丸めたりしないでください。

1 ループ（ ）になっている部分のみをプラスチックスタンドからはずす。

2 組み立てる。

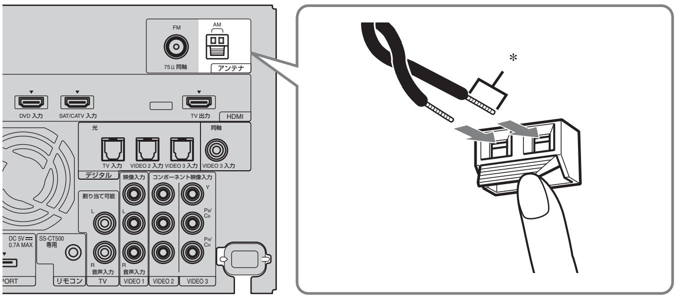
台を起こし、溝に差しこみます。



3 AMアンテナ端子にアンテナコードをつなぐ。

レバーを指で押しながら、コードの（*）の部分を差し込んでください。
コードはどちらの端子にもつなぐことができます。

サブウーファー
背面



ご注意

- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。

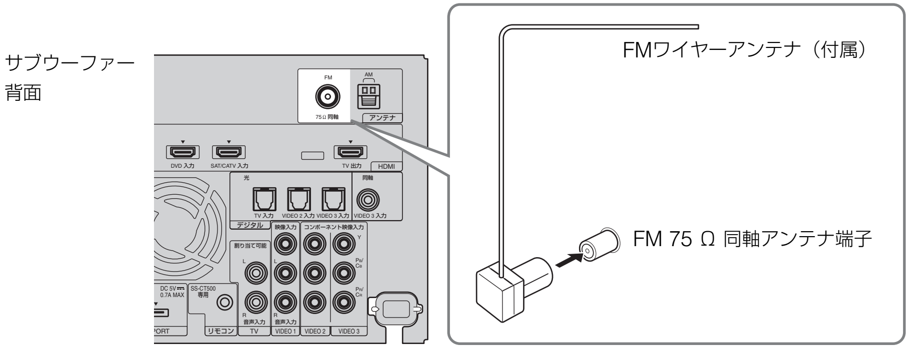
ちょっと一言

- AM放送の受信状態が良くないときは、付属のAMループアンテナの向きや位置を受信状態の良い方向や位置へ変えてください。

4 アンテナコードを軽く引いてみて、しっかりつながれたことを確認する。

FMワイヤーアンテナをつなぐ

FMワイヤーアンテナをFM 75 Ω 同軸アンテナ端子につなぎます。

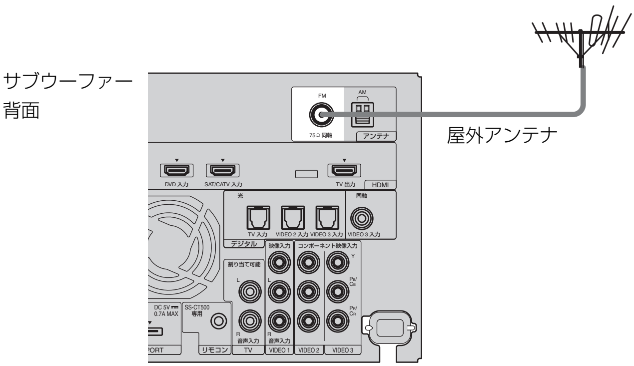


ご注意

- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、受信状態の良い向きを探してください。
- FMワイヤーアンテナを壁にはるときは、受信状態の良い壁面を探してください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使わないでください。
- FMワイヤーアンテナは奥まで確実に差し込んでください。

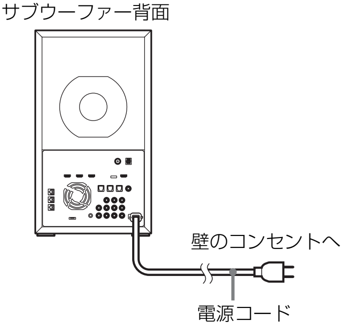
ちょっと一言

- FM放送の受信状態が良くないときは、市販の75Ω同軸ケーブルを使って、本機と屋外アンテナをつなぎます。



準備5：電源コードをつなぐ

スピーカーをつないでから（31ページ）、サブウーファーの電源コードを壁のコンセントにつないでください。



ご注意

- 電源コードをつないで約20秒待ってから、リモコンの電源ボタンまたはサブウーファーの I/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れてください。
- 本機は、コンセントの近くでお使いください。ご使用中不具合が生じた時は、すぐにコンセントから電源コードを抜き、電源を遮断してください。

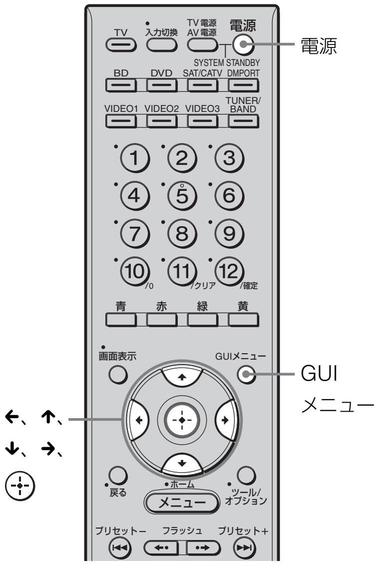
準備6：GUI (Graphical User Interface)を使って本機を操作する

本機のHDMI TV出力端子とお使いのHDMI入力端子をHDMIケーブル（別売）でつないでいるときは、GUIメニューを使うことができます。

GUIメニューを使って、本機のさまざまな設定をすることができます。

リモコンのシステムメニューボタンを使っても本機の設定をすることができます。詳しくは、「システムメニューの設定をする」（93ページ）をご覧ください。

テレビ画面にGUIメニューを表示する



1 **テレビを本機につなぐ。**

詳しくは「準備3a：HDMI端子がある機器をつなぐ」（33ページ）をご覧ください。

2 **テレビの電源を入れる。**

3 **本機の電源を入れる。**

4 **本機の映像が映るようにテレビの入力を切り換える。**

5 **GUIメニューボタンを押す。**

「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

6 **↑/↓を繰り返し押して、設定したい項目を選び、⊕または→を押す。**



メニュー一覧

各メニューを使ってできる操作は以下のとおりです。

Input

本機への入力を選びます。
詳しくは「テレビの音声を聞く」（56ページ）、「つないだ機器の音声を聞く」（57ページ）をご覧ください。

Music

デジタルメディアポート端子につないだ機器の音声を楽しむことができます。
音声について詳しくは「デジタルメディアポート」（59ページ）をご覧ください。

Video

今後発売されるデジタルメディアポートアダプターのための項目です。

FM/AM

本機でラジオを聞くことができます。
詳しくは「GUIメニューを使ってラジオを聞く」（72ページ）、「本機の表示窓の表示を使ってラジオを聞く」（75ページ）をご覧ください。

Settings

本機の設定、調節をすることができます。

[Level]
スピーカーのレベルとバランスを調節します。
詳しくは「スピーカーレベルを設定する」（85ページ）をご覧ください。

[Surround]
お好みに合わせてサウンドフィールド（サラウンド効果）を選びます。
詳しくは「サラウンド効果を楽しむ」（61ページ）をご覧ください。

次のページへつづく

[Tone]
音声の低域、高域のレベルを簡単に調整することができます。
詳しくは「音質を調整する」（63ページ）をご覧ください。

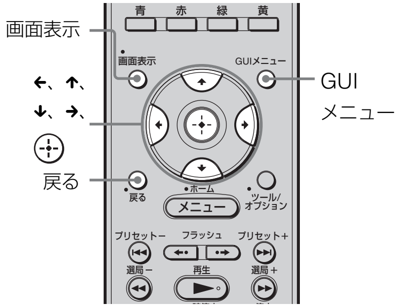
[Audio]
音声に関する機能の設定や操作を行ないます。
詳しくは「映像の遅れに音声を合わせる」（86ページ）、「AAC（2ヶ国語放送）を楽しむ」（87ページ）、「音声入力端子に入力ファンクションを割り当てる」（88ページ）、「小さな音量で聞く」（63ページ）をご覧ください。

[Video]
映像の解像度の調整をします。
詳しくは「アナログ映像信号を変換する」（89ページ）をご覧ください。

[HDMI]
HDMI端子につないだ機器の操作ができます。
HDMIに関連する機能の設定について詳しくは「ブラビアリンクの準備をする」（65ページ）をご覧ください。HDMI入力信号の出力設定について詳しくは「HDMI映像をさらに高画質で見る」（90ページ）をご覧ください。

[System]
本機の表示窓の明るさや表示の設定ができます。詳しくは「本体表示の明るさを調節する」（91ページ）、「表示窓の設定を変える」（92ページ）をご覧ください。

画面操作のしかた



1 GUIメニューボタンを押す。
「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ。



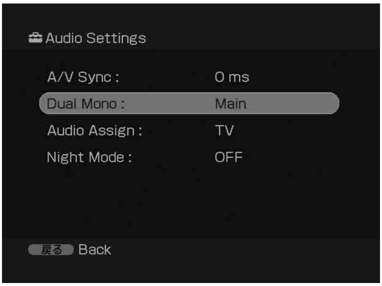
3 ⊕または→を押して、メニューを確定する。

テレビ画面にメニューリストが表示されます。



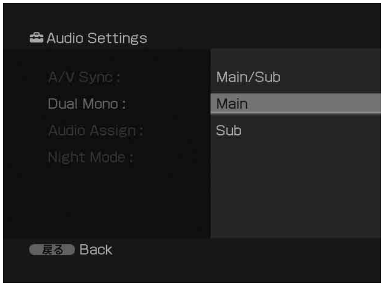
4 ↑/↓を繰り返し押して、設定したいメニュー項目を選ぶ。

5 ⊕を押して、メニュー項目を確定する。



6 ↑/↓を繰り返し押して、パラメータを選ぶ。

7 ⊕または→を押して、パラメータを確定する。



8 ↑/↓を繰り返し押して、設定を選ぶ。

9 ⊕を押して、設定を確定する。

10 手順2から9を繰り返し、他のメニュー項目を設定する。

前の表示画面に戻るには

リモコンの戻るボタンを押します。

ガイドメニューを表示させたり消したりするには

画面表示ボタンを押します。

GUIメニューから抜けるには

GUIメニューボタンを押します。

次のページへつづく

GUIメニュー一覧

リモコンのGUIメニューボタンから次のような項目を選ぶことができます。

- Input
  - TV
  - BD
  - DVD
  - SAT/CATV
  - VIDEO 1
  - VIDEO 2
  - VIDEO 3
- Music
  - Bluetooth
  - Walkman
- Video
  - 詳しくは「Video」（47ページ）をご覧ください。
- FM
  - Auto Tuning
  - Direct Tuning
- Option*
  - FM Mode
  - Memory
  - Name Input
- AM
  - Auto Tuning
  - Direct Tuning
- Option*
  - Memory
  - Name Input

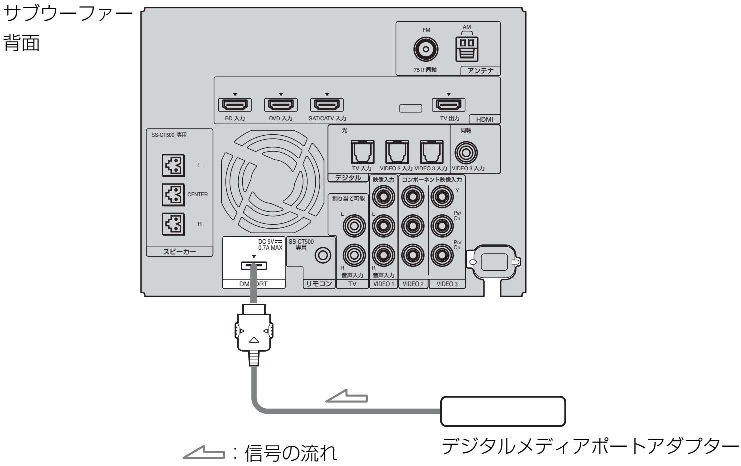
- Settings
  - Level
    - Center Level
    - Subwoofer Level
    - D.Range Comp
  - Surround
    - Sound Field Setup
  - Tone
    - Bass Level
    - Treble Level
  - Audio
    - A/V Sync
    - Dual Mono
    - Audio Assign
    - Night Mode
  - Video
    - Resolution
  - HDMI
    - Control for HDMI
    - Volume Limit
    - Sound Field
    - HDMI Pass Through
    - Video Direct
  - System
    - Dimmer
    - Display

＊ ツール／オプションボタンで表示されます。

その他の機器をつなぐ

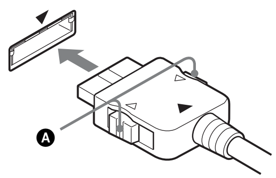
デジタルメディアポートアダプターをつなぐ

デジタルメディアポート端子（DMPORT端子）につないだ機器の音声と映像を本機で楽しむことができます。



ご注意

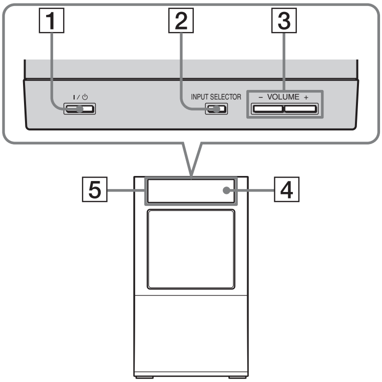
- 本機の電源が入っているときは、デジタルメディアポートアダプターを抜き差ししないでください。
- デジタルメディアポートアダプターを差し込むときは、コネクターとデジタルメディアポート端子（DMPORT端子）の矢印が向かい合っていることを確認してください。デジタルメディアポートアダプターを取り外すときは、Ⓐを押しながらコネクターを抜いてください。



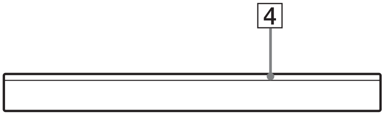
各部の名前と働き

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

サブウーファー（本機）



スピーカー



1 **I/⏻（電源）ボタン**

本機の電源を入／切します。

2 INPUT SELECTOR **（入力切換）ボタン**

再生する入力ソースを選びます。
ボタンを押すたびに、入力ソースは次のように切り換わります。
TV → BD → DVD → SAT/CATV → VIDEO 1 → VIDEO 2 → VIDEO 3 → FM → AM → DMPORT → TV……

3 VOLUME **（音量）－／＋ボタン**

本機の音量を調節します。

4 **（リモコン受光部）**

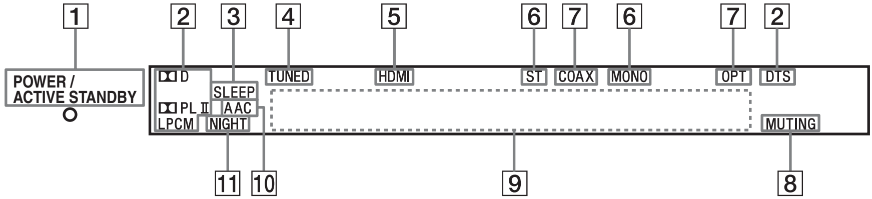
リモコンをここに向けて操作してください。

5 **表示窓**

本機の状態を表示します。

次のページへつづく

表示窓に点灯する項目と働き（サブウーファー）



1 POWER / ACTIVE STANDBY

以下のように点灯します。

緑：　電源が入っている状態です。

消灯：　電源が切れている状態です。

オレンジ：[HDMI]メニューの[HDMI Pass Through]が[ON]または[AUTO]で、電源が切れている状態です。

2 **音声デコード表示**

入力の信号に応じて、現在デコードしている音声が点灯します。

3 SLEEP（94）

スリープタイマーを設定したときに点滅します。

4 TUNED（75）

ラジオ受信中に点灯します。

5 HDMI（33、97）

HDMI対応機器を使っているときに点灯します。

6 ST／MONO（75）

ラジオを受信したとき、ステレオまたはモノラルのうち、現在使われている音声入力が点灯します。

7 COAX／OPT

同軸（COAX）入力または光（OPT）入力のうち、現在使われている音声入力が点灯します。

8 MUTING

消音しているときに点灯します。

9 **メッセージ表示領域**

音量や選ばれている外部入力、入力された音声信号の種類などを表示します。

10 AAC（87）

AAC受信時に点灯します。

11 NIGHT（63）

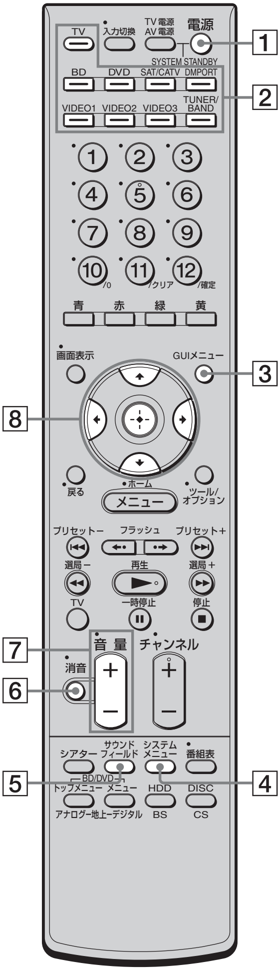
ナイトモードのときに点灯します。

リモコン

付属のリモコンを使って、本機を操作することができます。つないだ機器の操作については、79ページをご覧ください。

ご注意

- リモコンは、本機またはスピーカーのリモコン受光部（🅁）に向けて操作してください。



＊ 数字ボタンの5、および►ボタン、チャンネル＋ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

1 **電源ボタン**

本機の電源を入／切します。

2 **入力ボタン**

使用する機器を選びます。
工場出荷時は、ソニー製機器の操作ができるよう設定されています。お使いの機器に合わせて設定を変更することができます。詳しくは「リモコンの入力ボタンに登録された機器を変更する」（82ページ）をご覧ください。

3 **GUIメニューボタン**

本機のGUIメニューをテレビに表示します。詳しくは「準備6：GUI (Graphical User Interface)を使って本機を操作する」（46ページ）をご覧ください。

4 **システムメニューボタン**

本機のメニューを表示窓に表示します（93ページ）。

5 **サウンドフィールドボタン**

お好みのサウンドフィールドを選びます（61ページ）。

6 **消音ボタン**

消音します。

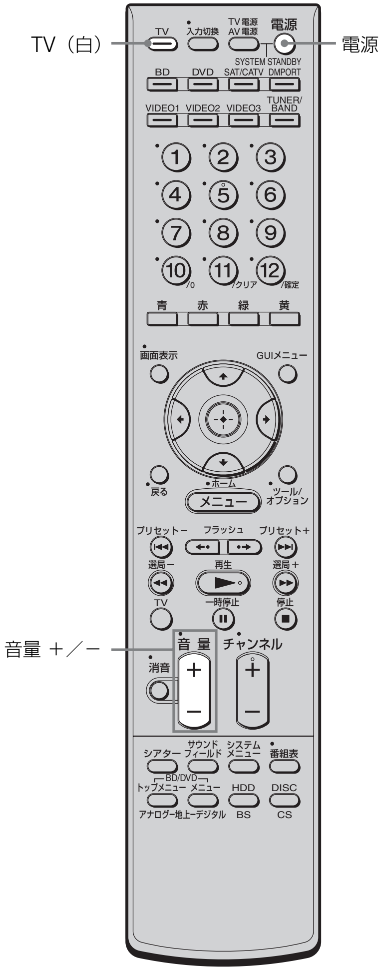
7 **音量＋／－ボタン**

音量を調節します。

8 **←、↑、↓、→、⊕ボタン**

←、↑、↓、→ボタンを押して設定を選び、⊕ボタンで決定します。

テレビの音声を聞く



1 テレビの電源を入れて、番組を選ぶ。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 本機の電源を入れる。

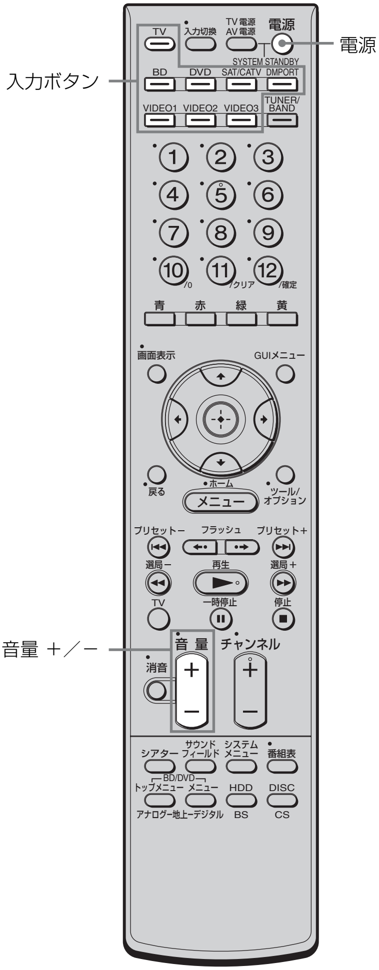
3 リモコンのTV（白）ボタンを押す。

4 音量＋／－ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言

- ソニー製テレビをつないでいる場合、TV（白）ボタンを押すだけで、自動的にテレビの音声入力を切り換え、テレビの映像を表示します。設定を変えるときは、「リモコンの入力ボタンに登録された機器を変更する」（82ページ）をご覧ください。
- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。この場合は、テレビの音量を最小にしてください。

つないだ機器の音声を聞く



衛星放送チューナー／ケーブルテレビの音声を楽しむ

1 テレビの電源を入れる。
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 衛星放送チューナー／ケーブルテレビと本機の電源を入れる。

3 リモコンのSAT/CATVボタンを押す。

4 テレビの入力を切り換える。
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

5 音量＋／－ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言
- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。この場合は、テレビの音量を最小にしてください。

ブルーレイディスク／DVD／“プレイステーション3”を楽しむ

1 テレビの電源を入れる。
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 ブルーレイディスク／DVDプレーヤー（レコーダー）、または“プレイステーション 3”と本機の電源を入れる。

3 リモコンのBDまたはDVDボタンを押す。

次のページへつづく

4 テレビの入力を切り換える。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

5 ディスクを再生する。

ちょっと一言

- Dolby True HD、Dolby Digital Plus、DTS-HDに対応した接続機器で、これらの音源を再生しても、本機はDolby DigitalまたはDTSとして対応します。HDMIケーブルでつないでいる場合、これらの高品質サウンドフォーマットを聞くとき、可能であれば接続機器の出力設定をマルチチャンネルPCMにしてください。

再生機器を楽しむ

1 テレビの電源を入れる。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 再生機器と本機の電源を入れる。

3 リモコンのVIDEO 1、VIDEO 2、または VIDEO 3ボタンを押す。

4 テレビの入力を切り換える。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

5 再生機器を再生する。

デジタルメディアポート端子（DMPORT端子）につないだ機器を楽しむ

詳しくは「デジタルメディアポートにつないだ機器を楽しむ」（59ページ）をご覧ください。

デジタルメディアポート（DMPORT）の機能

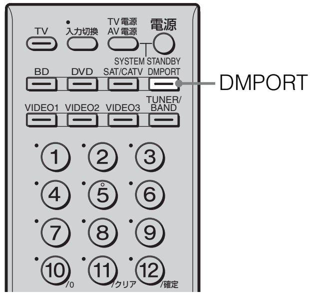
デジタルメディアポート（DMPORT）の機能を使って、ポータブルオーディオプレイヤーやコンピューターなどのソースを楽しむことができます。
デジタルメディアポートアダプターの接続については、「その他の機器をつなぐ」（52ページ）をご覧ください。

デジタルメディアポートアダプター（TDM-NW10、TDM-BT10）は別売りです。

ご注意

- デジタルメディアポートアダプター以外のアダプターなどをDMPORT端子につながないでください。
- リモコンで本機の電源を切ってからデジタルメディアポートアダプターをはずしてください。
- 電源が入っている状態で、本機にデジタルメディアポートアダプターをつないだり、はずしたりしないでください。

デジタルメディアポートにつないだ機器を楽しむ



1 リモコンのDMPORTボタンを押す。

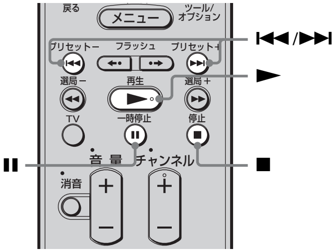
2 つないだ機器を再生する。

ちょっと一言

- MP3音声トラックやその他の圧縮された音声ファイルを聞くときは、サウンドフィールドの[Portable Audio]をおすすめします。表示窓の表示は「P. AUDIO」です（61ページ）。

選んだトラックを再生する

お好みのトラックを再生中、デジタルメディアポートにつないだ機器によって、操作画面の表示が変わります。
デジタルメディアポートにつないだ機器を、本機のリモコンを使って、次のように操作できます。



操作	押すボタン
再生	▶
一時停止	IIもう一度押すと通常再生に戻ります。
停止	■*
再生中のトラックの最初から再生する。もしくは前のトラックを最初から再生する。	⏮
次のトラックを最初から再生する。	⏭

デジタルメディアポートアダプターの操作について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

デジタルメディアポート使用時のメッセージ一覧

表示	原因と対策
[No Adapter]	アダプターが接続されていません。
[No Device]	アダプターに機器が接続されていません。

サラウンド機能

サラウンド効果を楽しむ

サウンドフィールドを使ってサラウンド効果を楽しむ

本機ではマルチチャンネルサラウンド効果を楽しむことができます。お好みのサウンドフィールドを選んでください。

サウンドフィールドの種類

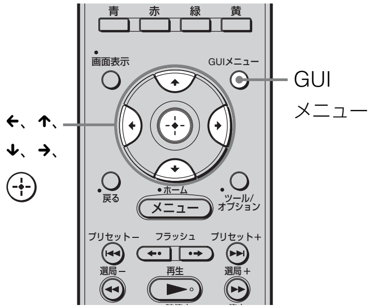
サウンドフィールド	効果
[Standard]	どんなソースにも幅広く対応します。
[Movie]*	セリフが聞き取りやすく、迫力のあるサウンドと臨場感が楽しめます。
[Drama]*	テレビドラマに適した音質で楽しめます。
[News]*	アナウンサーの声が聞き取りやすい、クリアな音声です。
[Sports]*	解説が聞き取りやすく、歓声などがサラウンドで聞こえ、臨場感が楽しめます。
[Game]*	ゲームに適した迫力あるサウンドと臨場感が楽しめます。
[Music]	音楽番組や音楽系のブルーレイディスク、DVDに適した音質で楽しめます。
[Jazz]	ジャズクラブの雰囲気を楽しめます。
[Classic]	クラシックコンサートの雰囲気を楽しめます。
[Rock]	ロックミュージックに適した迫力あるサウンドを楽しめます。
[Pop]	ポップミュージックに適した軽快なサウンドを楽しめます。
[Live]	ライブ会場の雰囲気を楽しめます。
[Portable Audio]**	携帯用ミュージックプレーヤーで再生されるMP3などの圧縮されたソースに適しています。

* INPUT SELECTOR（入力切換）ボタンで「DMPORT」を選択しているときは、表示されません。

**[Portable Audio]は「DMPORT」を選択しているときのみ表示されます。

サウンドフィールドを選ぶ

以下の手順にてお好みのサウンドフィールドを選ぶことができます。



1 視聴したいソース（CD、DVDなど）を再生する。

2 GUIメニューボタンを押す。

「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

サラウンド機能

次のページへつづく

3 ↑/↓を繰り返し押して、[Settings]を選び、⊕または→を押す。

[Settings]メニューが表示されます。

4 ↑/↓を繰り返し押して、[Surround]を選び、⊕を押す。

[Sound Field Setup]が表示されます。

5 ↑/↓を繰り返し押して、お好みのサウンドフィールドを選び、⊕または→を押す。



6 GUIメニューボタンを押す。

GUIメニューを終了します。

ご注意

- 2チャンネルソースに[Music]のサウンドフィールドを選ぶと、センタースピーカーから音がでません。

ちょっと一言

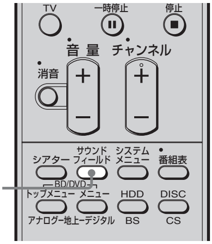
- 電源コードを抜いても、本機は各ファンクションで最後に選んだサウンドフィールドを記憶します。
- BDファンクションやDVDファンクションなどを選ぶと、最後に選んだサウンドフィールドが再び自動的に適応されます。例えば、DVDの音声を[Movie]のサウンドフィールドで聞いていた場合、他のファンクションを選んでからDVDに戻ると再び[Movie]が適応されます。

リモコンでサウンドフィールドを選ぶには

リモコンのサウンドフィールドボタンを押す。

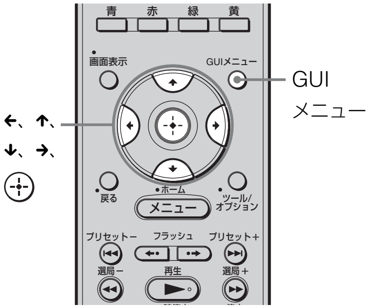
サウンドフィールドボタンを押すたびに、サウンドフィールドが切り換わります。

サウンド
フィールド



音質を調整する

音声の低域、高域のレベルを簡単に調整することができます。



1 **GUIメニューボタンを押す。**
「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 **↑/↓を繰り返し押して、[Settings]を選び、⊕または→を押す。**
[Settings]メニューが表示されます。

3 **↑/↓を繰り返し押して、[Tone]を選び、⊕を押す。**
[Tone]メニューが表示されます。

4 **↑/↓を繰り返し押して、[Bass Level]または[Treble Level]を選び、⊕または→を押す。**
- [Bass Level]：音声の低域を調整します。
- [Treble Level]：音声の高域を調整します。

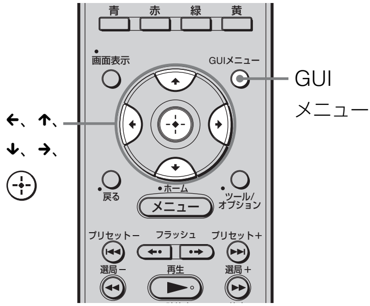
5 **↑/↓を繰り返し押して、お好みの設定を選び、⊕を押す。**
[-6dB]から[+6dB]まで、1 dBずつ設定できます。初期値は[0dB]です。

6 **GUIメニューボタンを押す。**
GUIメニューを終了します。

小さな音量で聞く

（ナイトモード）

小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。



1 **GUIメニューボタンを押す。**
「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 **↑/↓を繰り返し押して、[Settings]を選び、⊕または→を押す。**
[Settings]メニューが表示されます。

3 **↑/↓を繰り返し押して、[Audio]を選び、⊕を押す。**
[Audio]メニューが表示されます。

4 **↑/↓を繰り返し押して、[Night Mode]を選び、⊕または→を押す。**

次のページへつづく

5 ↑/↓を繰り返し押して、[ON]を選び、⊕または→を押す。

「NIGHT」が表示窓に点灯し、サウンド効果が適用されます。

6 GUIメニューボタンを押す。

GUIメニューを終了します。

ブラビアリンク機能とは？

HDMI機器制御機能（ブラビアリンク）に対応しているソニー製品をHDMIケーブル（別売）でつなぐと、下記のように操作を簡単に行うことができます。

- ワンタッチプレイ：ブルーレイディスク／DVDプレーヤー（レコーダー）などの機器を再生すると、本機とテレビの電源が自動的に入り、HDMI入力に切り替わります。
- システムオーディオコントロール：テレビの視聴中、音声の出力をテレビのスピーカーで行うか、本機のスピーカーで行うかを選ぶことができます。
- 電源オフ連動：テレビの電源を切ると、本機とつないだ機器の電源も同時に切ることができます。
- オートジャンルセレクター：デジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り替わります。

ブラビアリンクは、HDMI機器制御を搭載したソニーのテレビやブルーレイディスク／DVDプレーヤー、AVアンプなどに対応しています。

HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

次の場合、HDMI機器制御機能は作動しません。

- 本機をHDMI機器制御機能（ブラビアリンク)に対応していない機器につないだとき。
- 本機と各機器をHDMIでつないでいないとき。

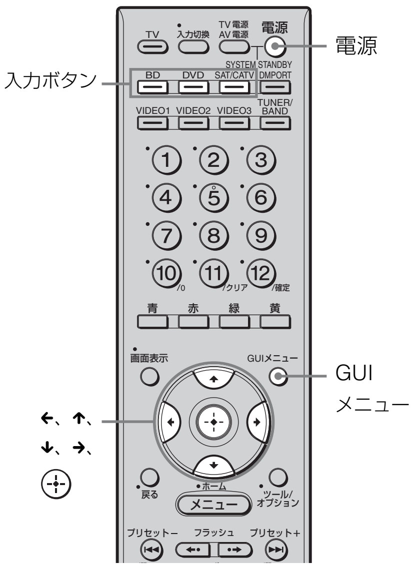
本機には、ブラビアリンクに対応した機器を接続することをおすすめします。

ご注意

- つないだ機器によっては、HDMI機器制御機能が作動しないことがあります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ブラビアリンクの準備をする

ブラビアリンクを使うには、本機とつないだ機器のHDMI機器制御機能をオン（入）に設定して下さい。HDMI機器制御機能に対応しているソニー製テレビをお使いの場合、テレビのHDMI機器制御機能の設定を行うと、本機やつないだ機器のHDMI機器制御機能も連動して設定されます。



次のページへつづく

1 本機とテレビ、再生機器がHDMIケーブル（別売）でつながれていることを確認する。（各機器はHDMI機器制御機能に対応している必要があります。）

2 本機とテレビ、再生機器の電源を入れる。

3 再生機器の映像がテレビに映るように、テレビのHDMI入力と本機の入力（BD、DVDまたはSAT）を切り換える。

4 テレビのHDMI機器制御機能をオン（入）に設定する。

本機と再生機器側のHDMI機器制御機能が同時にオン（入）に設定されます。設定中は「SCANNING」が表示窓に表示され、設定が完了すると、表示窓に「COMPLETE」が表示されます。

「SCANNING」、「COMPLETE」が表示されないときは

本機と再生機器のHDMI機器制御を個別にオン（入）に設定してください。

1 GUIメニューボタンを押す。

「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、[Settings]を選び、⊕または→を押す。

[Settings]メニューが表示されます。

3 ↑/↓を繰り返し押して、[HDMI]を選び、⊕を押す。

[HDMI]メニューが表示されます。

4 ↑/↓を繰り返し押して、[Control for HDMI]を選び、⊕または→を押す。

5 ↑/↓を繰り返し押して、[ON]を選び、⊕を押す。

HDMI機器制御機能がオン（入）になります。

6 GUIメニューボタンを押す。

GUIメニューを終了します。

7 再生機器のHDMI機器制御機能をオン（入）にする。

再生機器の設定については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

8 HDMI機器制御機能を使いたい再生機器の入力（BD、DVDまたはSAT/CATV）を本機で選び、手順7を繰り返す。

本機に再生機器を追加する、またはつなぎ直すときは

「ブラビアリンクの準備をする」や「「SCANNING」、「COMPLETE」が表示されないときは」」の手順をもう一度行ってください。

ご注意

- 本機のHDMI機器制御機能の設定中は、システムオーディオコントロール機能は作動しません。
- テレビの「HDMI 機器制御機能」によって、再生機器のHDMI機器制御機能を同時に設定できない場合は、再生機器のメニューからHDMI機器制御機能を設定してください。
- テレビや再生機器の設定については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言
- お買い上げ時の本機のHDMI機器制御機能は、オン（入）に設定されています。

ブルーレイディスクやDVDを楽しむ

（ワンタッチプレイ）

つないだ機器を再生する。

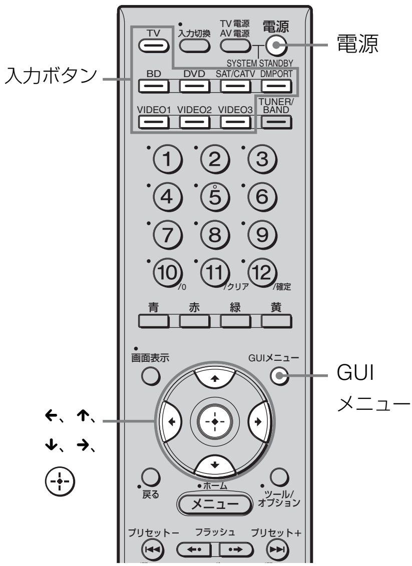
本機とテレビの電源が自動的に入り、HDMI入力に切り替わります。

ご注意
- テレビによっては、コンテンツの開始部分が出力されないことがあります。

テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ

（システムオーディオコントロール）

簡単な操作で、テレビの音声を本機のスピーカーから楽しむことができます。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。



本機の電源を入れる。

本機のスピーカーから音声が出ます。本機の電源を切ると、テレビのスピーカーから音声が出ます。

ご注意
- 本機の電源を入れる前にテレビの電源が入っている場合、テレビの音声がしばらく途切れることがあります。

ちょっと一言
- テレビのリモコンを使って、本機の音量を調節したり、消音することができます。

次のページへつづく

デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える（オートジャンルセレクター）

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（オートジャンルセレクター対応のテレビをお使いの場合のみ）。

1 **GUIメニューボタンを押す。**
「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 **↑/↓を繰り返し押して、[Settings]を選び、⊕または→を押す。**
[Settings]メニューが表示されます。

3 **↑/↓を繰り返し押して、「HDMI」を選び、⊕を押す。**
[HDMI]メニューが表示されます。

4 **↑/↓を繰り返し押して、[Sound Field]を選び、⊕または→を押す。**

5 **↑/↓を押して、設定を選ぶ。**
- [AUTO]：デジタル放送のテレビ番組に応じてサウンドフィールドが自動的に切り替わります。
- [MANUAL]：サウンドフィールドボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

6 **GUIメニューボタンを押す。**
GUIメニューを終了します。

番組情報対応表

番組情報（EPG情報）	オートジャンルセレクターで切り替わるサウンドフィールド
ニュース／報道	NEWS
スポーツ	SPORTS
情報／ワイドショー	STANDARD
ドラマ	DRAMA
音楽	MUSIC
バラエティ	STANDARD
映画	MOVIE
アニメ／特撮	STANDARD
ドキュメンタリー	STANDARD
劇場／公演	MUSIC
趣味／教育	NEWS
福祉	NEWS
その他	STANDARD
スポーツ（CS）	SPORTS
洋画（CS）	MOVIE
邦画（CS）	MOVIE
情報なし	STANDARDもしくは、前回のサウンドフィールドが保持されます。

ご注意
- 番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り替わるとき、音が途切れることがあります。

音量制限機能を使う

システムオーディオコントロールが作動中に、音声出力がテレビから本機に切り替わると、本機の音量によっては大きな音が出ることがあります。こうしたことを防ぐために、本機に切り換えた後の音量を制限することができます。

1 **GUIメニューボタンを押す。**
「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、[Settings]を選び、⊕または→を押す。

[Settings]メニューが表示されます。

3 ↑/↓を繰り返し押して、[HDMI]を選び、⊕を押す。

[HDMI]メニューが表示されます。

4 ↑/↓を繰り返し押して、[Volume Limit]を選び、⊕または→を押す。

5 ↑/↓を押して、最大音量レベルを設定する。

最大音量レベルは次のように変わります。

MAX ↔ 49 ↔ 48 ↔
...... ↔ 2 ↔ 1 ↔ MIN

6 GUIメニューボタンを押す。

GUIメニューを終了します。

ご注意

- 音量制限機能は、HDMI機器制御機能がオン（入）のときのみ作動します。
- 音量制限機能は、音声出力が本機のスピーカーからテレビのスピーカーに切り替わるときは作動しません。

ちょっと一言

- 最大音量レベルは、通常お聞きの音量より少し小さくすることをおすすめします。
- 設定した最大音量レベルにかかわらず、本機と本機のリモコンで音量を調節できます。
- 最大音量レベルを制限しない場合は、音量制限を「MAX」に設定してください。

リモコンの入力ボタンを使う

HDMI機器制御機能がオン（入）のとき、入力ボタン（TV（白）、BD、DVD、SAT/CATV、DMPORT、VIDEO）は次のように作動します。

- BD、DVD、SAT/CATV、DMPORT、VIDEOボタン：押すだけで、テレビ入力も自動的に切り替わり、選んだ再生機器の映像をテレビで見ることができます。
- TV（白）ボタン：押すだけで、テレビ入力が自動的に切り替わります。ソニー製のテレビをつないでいる場合、簡単にテレビを見ることができます。

ちょっと一言

- 入力ボタンを押して、つないだソニー機器を操作することができます。詳しくは「つないだ機器をリモコンで操作する」（79ページ）をご覧ください。

テレビと本機、再生機器の電源を切る

（電源オフ連動）

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機とつないだ再生機器の電源も自動的に切ることができます。また、本機のリモコンでテレビの電源を切ったときも、本機とつないだ再生機器の電源を自動的に切ることができます。



1 TV（黄色）ボタンを押す。

TV（黄色）ボタンがしばらく点灯します。

2 AV電源ボタンを押す。

テレビと本機、再生機器の電源が切れます。

ご注意

- 状態によっては、つないだ機器の電源を切れない場合があります。詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

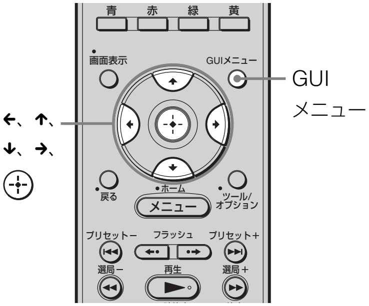
本機がスタンバイ中に再生機器を楽しむ

（HDMIパススルー）

本機の電源を入れなくても、本機につないだ再生機器とテレビだけで使うことができます。HDMI信号が再生機器から本機を通りテレビに伝送されます。
初期設定は[OFF]（切）です。

ご注意

- [Control for HDMI]が[ON]のとき、この機能は使えます。



1 GUIメニューボタンを押す。

「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、[Settings]を選び、⊕または→を押す。

[Settings]メニューが表示されます。

3 ↑/↓を繰り返し押して、[HDMI]を選び、⊕を押す。

[HDMI]メニューが表示されます。

4 ↑/↓を繰り返し押して、[HDMI Pass Through]を選び、⊕または→を押す。

[HDMI Pass Through]メニューが表示されます。

5 ↑/↓を繰り返し押して、設定を選び、⊕を押す。

設定	説明
[AUTO]	本機のスタンバイ時に、テレビの電源を入れると本機のHDMI出力端子から信号を出力します。 ブラビアリンク対応のテレビをお使いの場合、この設定をおすすめします。 [ON]設定時よりもスタンバイ時の消費電力を削減できます。
[ON]	本機のスタンバイ時に、HDMI出力端子から常に信号を出力します。
[OFF]	本機のスタンバイ時に、HDMI出力端子から信号を出力しません。 つないだ機器をテレビで楽しむ場合には、本機の電源を入れてください。 [ON]設定時よりもスタンバイ時の消費電力を削減できます。

ご注意

- [AUTO]設定時は、[ON]に設定した場合よりも映像と音声が出るまでに時間がかかることがあります。

ちょっと一言

- ブラビアリンク対応機器のワンタッチプレイを使うとき、本機の電源の入り方は「HDMIパススルー」の設定によって変わります。
  - [AUTO]または[ON]：テレビのスピーカー設定に応じて本機の電源が入ります。
  - [OFF]：ワンタッチプレイで常に本機の電源が入ります。

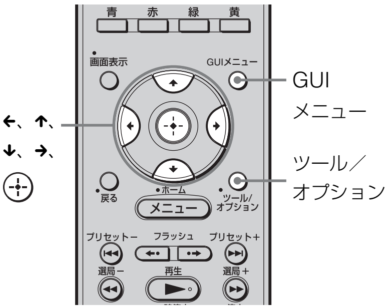
6 GUIメニューボタンを押す。

GUIメニューを終了します。

GUIメニューを使ってラジオを聞く

本機内蔵のチューナーを使って、FM放送とAM放送を聞くことができます。受信を始める前に、FMワイヤーアンテナもしくはAMループアンテナを、サブウーファーにつないでください（44ページ）。

自動選局



1 **GUIメニューボタンを押す。**

「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 **↑/↓を繰り返し押して、[FM]または[AM]を選び、⊕または→を押す。**

FMまたはAMメニューがテレビ画面に表示されます。

3 **↑/↓を押して[Auto Tuning]を選び、⊕を押す。**



4 **↑/↓を押す。**

↑ボタンを押すと周波数の低いほうから選局し、↓ボタンを押すと周波数の高いほうから選局します。

放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。続けて選局するには、↑または↓を押してください。

5 **GUIメニューボタンを押す。**

GUIメニューを終了します。

FM放送の受信状態が良くないときには

FM放送の受信状態が良くないときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

1 **ツール／オプションボタンを押す。**

2 **↑/↓を押して[FM Mode]を選び、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を押して[Mono]を選び、⊕を押す。**

ダイレクト選局

数字ボタンを使って、放送局の周波数を直接入力することができます。



1 **GUIメニューボタンを押す。**

「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 **↑/↓を繰り返し押して、[FM]または[AM]を選び、⊕を押す。**

3 **↑/↓を押して[Direct Tuning]を選び、⊕を押す。**

4 **数字ボタンを押して周波数を入力する。**

例1：FM 89.50 MHzの場合。
「8 → 9 → 5」と入力します。
例2：AM 1,350 kHzの場合。
「1 → 3 → 5 → 0」と入力します。



ちょっと一言

- AM放送局を受信しているときに受信状態を良くするには、付属のアンテナの向きや位置を変えてみてください。

5 **⊕を押す。**

まちがった周波数を入力したときには

テレビ画面に「---.-- MHz」と表示されたあと、入力前の周波数の表示に戻ります。

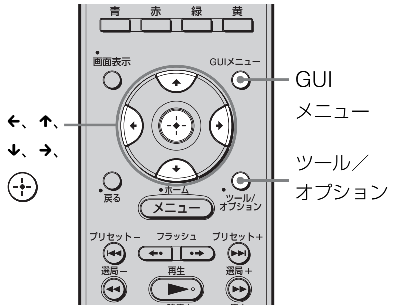
入力した放送局を受信できないときには

正しい周波数を入力したか確認し、手順4を繰り返してください。それでも受信できないとき、その周波数はお住まいの地域では使用されていない場合があります。

次のページへつづく

放送局を登録する（プリセット）

FM局を20局とAM局を10局登録できます。よく聞く放送局は登録しておくと便利です。
受信を始める前に、音量を最小にしてください。



1 **GUIメニューボタンを押す。**

「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 **↑/↓を繰り返し押して、[FM]または[AM]を選び、⊕または→を押す。**

3 **自動選局（72ページ）またはダイレクト選局（73ページ）で登録したい放送局を受信する。**

FM放送の受信状態が良くないときには、[FM Mode]の設定を変えてみてください（72ページ）。

4 **ツール／オプションボタンを押す。**

5 **↑/↓を押して[Memory]を選び、⊕または→を押す。**

6 **↑/↓を押してプリセット番号を選ぶ。**

7 **⊕を押す。**

放送局が登録されます。

8 **手順3～8を繰り返して、他の放送局を登録する。**

登録した放送局を聞くには

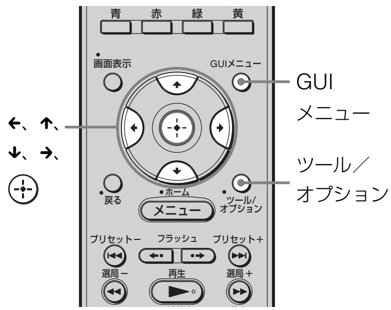
1 「放送局を登録する」（74ページ）の手順1と2を行う。

2 ↑/↓を押して、聞きたい放送局を選ぶ。

登録した放送局を、次の中から選ぶことができます。
AM局：AM1～AM10
FM局：FM1～FM20

登録した放送局に名前をつける

登録した放送局に名前をつけることができます。これらの名前（「XYZ」など）は、放送局が選ばれたときに表示されます。
文字は8字まで入力または表示できます。
登録した放送局には、それぞれひとつの名前しか登録できません。



1 **名前をつけたい放送局を選ぶ。**

2 **ツール／オプションボタンを押す。**

3 ↑/↓を押して[Name Input]を選び、⊕または→を押す。

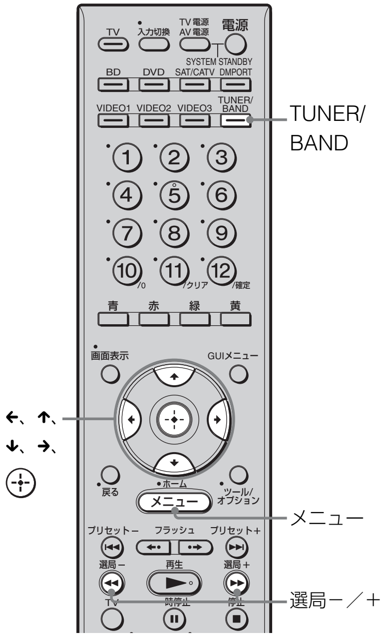
4 ←、↑、↓、→で名前をつけて、⊕を押す。

本機の表示窓の表示を使ってラジオを聞く

放送局を登録する（プリセット）

FM局を20局とAM局を10局登録できます。よく聞く放送局は登録しておくと便利です。

受信を始める前に、音量を最小にしてください。



1 TUNER/BANDボタンを押す。

TUNER/BANDボタンを押すたびに、「FM」と「AM」が切り替わります。

次のページへつづく

2 選局－／＋ボタンを押し続け、自動選局が始まったら離す。

周波数表示が変わっていき、放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。表示窓に「TUNED」、「ST」（ステレオプログラムのとき）が点灯します。

3 メニューボタンを押す。

4 ↑/↓で表示窓の「Memory?」を選ぶ。

5 ⊕を押す。

プリセット番号が表示窓に表示されます。



6 ↑/↓でプリセット番号を選ぶ。



ちょっと一言

• 数字ボタンを押して、プリセット番号を選ぶこともできます。

7 ⊕を押す。

放送局が登録されます。



8 メニューボタンを押す。

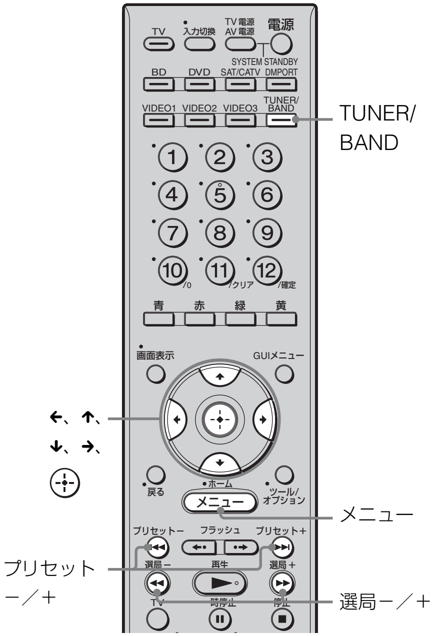
9 手順2～8を繰り返して、他の放送局を登録する。

プリセット番号を変えるには

手順3から操作をする。

ラジオを聞く

先に「放送局を登録する （プリセット)」(74ページ）または「放送局を登録する （プリセット)」(75ページ）で放送局を登録してください。



1 TUNER/BANDボタンを押す。

最後に受信した放送局が受信されます。TUNER/BANDボタンを押すたびに、「FM」と「AM」が切り替わります。

2 プリセット＋／－ボタンを繰り返し押して、登録した放送局の中から聞きたい放送局を選ぶ。

ボタンを押すごとに登録した放送局を1局ずつ探していきます。

数字ボタンを押して、登録した放送局の番号を選ぶこともできます。

3 音量を調節する。

ラジオを消すには

リモコンの電源ボタンまたは本機の**I/⏻**（電源）ボタンを押す。または他の入力ファンクションに切り換える。

登録していない放送局を聞くには

手順2で手動または自動で受信します。
手動受信は、リモコンの選局＋または－を繰り返し押します。
自動受信は、リモコンの選局＋または－を押し続けます。自動受信は放送局を受信すると自動的に停止します。自動受信を止めるときは選局＋または－を押してください。

FM放送の受信状態が良くないときには

FM放送の受信状態が良くないときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

1　メニューボタンを押す。

2　↑/↓で表示窓の「FM Mode?」を選び、⊕または→を押す。

3　↑/↓で「MONO」を選ぶ。

表示窓に「MONO」が点灯します。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- STEREO：ステレオ放送をステレオ受信します。
- MONO：モノラル受信します。

4　⊕を押す。

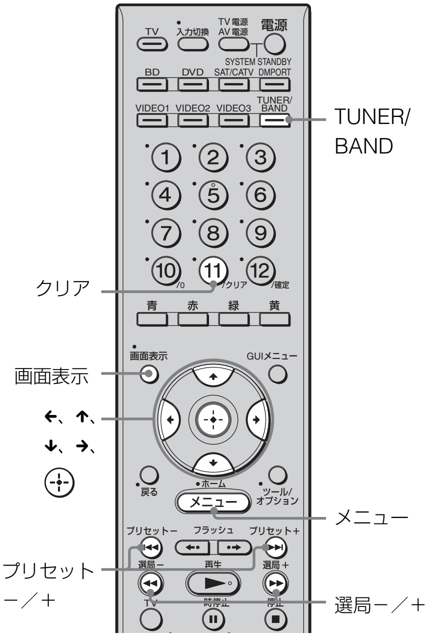
5　メニューボタンを押す。

ちょっと一言

- 受信状態を良くするには、付属のアンテナの向きや位置を変えてみてください。

登録した放送局に名前をつける

登録した放送局に名前をつけることができます。これらの名前（「XYZ」など）は、放送局が選ばれたときに表示窓に表示されます。
文字は8字まで入力できます。
登録した放送局には、それぞれひとつの名前しか登録できません。



1　TUNER/BANDボタンを押す。

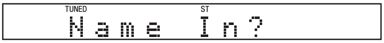
最後に受信した放送局が受信されます。
TUNER/BANDボタンを押すたびに、「FM」と「AM」が切り替わります。

2　プリセット＋/－ボタンを繰り返し押して、名前をつけたい放送局を選ぶ。

3　メニューボタンを押す。

次のページへつづく

4 ↑/↓で表示窓の「Name In?」を選ぶ。



5 ⊕を押す。

6 ←、↑、↓、→で名前をつける。

↑/↓で文字を選び、→を押してカーソルを次へ動かします。文字、数字、記号を入力することができます。

間違えて入力したときは

変更したい文字が点滅するまで、繰り返し←/→を押し、↑/↓で正しい文字を選ぶ。

文字を消すには、←/→を繰り返し押して消したい文字を点滅させ、クリアボタンを押す。

7 ⊕を押す。

表示窓に「Complete!」が表示され、放送局の名前が登録されます。



8 メニューボタンを押す。

ちょっと一言

- 画面表示ボタンを繰り返し押すと、表示窓で周波数を確認することができます（78ページ）。

表示窓で放送局の名前や周波数を見る

本機の入力ファンクションが「FM」または「AM」のとき、表示窓に周波数を表示させることができます。



画面表示ボタンを押す。

画面表示ボタンを押すたびに、表示窓は次のように切り替わります。

① 放送局名*

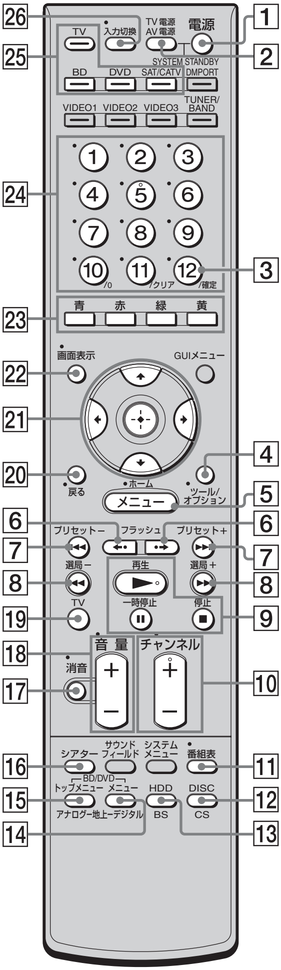
② 周波数**

* 放送局を登録して、名前をつけているときに表示されます。

**数秒経過後に放送局名表示に戻ります。

つないだ機器をリモコンで操作する

ソニー製の機器を本機のリモコンで操作できます。つないだ機器によっては、操作できない場合があります。そのようなときは、つないだ機器のリモコンから操作してください。



＊ 数字ボタンの5、および ► ボタン、チャンネル＋ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

つないだ機器を操作するには

1 操作したい機器を登録した入力ボタン25 (TV、BD、DVD、SAT/CATV) を押す。

選んだ入力ボタンに登録された機器が操作できるようになります。

2 次の表を参照して、ボタンを押す。

共通する操作

ボタン		機能
2	TV電源 AV電源 （電源オン／スタンバイ）	本機のリモコンで操作ができるソニー製のテレビまたはオーディオ、ビデオの電源を入／切します。 1電源ボタンと2TV電源／AV電源ボタンを同時に押して、本機と他の機器の電源を同時に切ります（システムスタンバイ）。
3	確定	選択を確定します。
21	←、↑、↓、→、(+)	矢印ボタンでメニュー項目を選び、(+)で選んだ項目を確定します。
23	カラーボタン	テレビ画面に操作ガイドを表示します（表示されない場合もあります）。ガイドに従って操作してください。
24	数字ボタン	チャンネルやトラックを数字で選びます。

テレビを操作するには

1 19 TV（黄色）ボタンを押して、テレビ操作モードに入る。

19 TV（黄色）ボタンがしばらく点灯し、リモコンはテレビ操作モードになります。

次のページへつづく

2 黄色の点がついたボタンまたは黄色のプリントがされたボタンを押す。

リモコンのテレビ操作モードを解除するには、19 TV（黄色）ボタンをもう一度押してください。すばやく4回点滅し解除されます。

ボタン		機能
4	ツール／オプション	そのときできる便利な機能を一覧表示します。
5	メニュー／ホーム	基本の操作を一覧表示します。
10	チャンネル＋／−	チャンネルを切り換えます。
11	番組表	地上デジタル放送で番組表を表示します。
12	CS	110度CSデジタル放送に切り換えます（ボタンを押すたびにCS1／CS2に切り替わります）。
13	BS	BSデジタル放送に切り換えます。
14	地上デジタル	地上デジタル放送に切り換えます。
15	地上アナログ	地上アナログ放送に切り換えます。
16	シアター	シアターボタンに対応したソニー製テレビにつないでいる場合、映画に適した設定を自動的に行ないます。 また、本機とテレビをHDMI接続して、HDMI機器制御機能をオン（入）の場合、自動的に本機の音声出力に切り換えます。
17	消音	消音します。
18	音量＋／−	音量を調節します。
20	戻る	ひとつ前の表示画面に戻ります。
21	←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。
22	画面表示	テレビ画面上に情報を表示します。
24	数字ボタン	チャンネルを選びます。 12以上のチャンネル番号を入力するときは、2桁、3桁目をすばやく押します。
26	入力切換	入力を切り換えます。

ブルーレイディスクレコーダー／DVDレコーダーを操作するには

ボタン		機能
5	メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
6	フラッシュ ⬅・	現在、または録画した番組を見ている間にジャンプで前に戻ります。
	フラッシュ・➡	録画した番組を見ているときにジャンプで先に送ります。
7	⏮	チャプターをスキップします。
	⏭	次に再生可能なチャプターにジャンプします。
8	◀◀／▶▶	再生中のディスクの早戻し／早送りをします。
9	▶（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
12	DISC	ディスク（ブルーレイディスク／DVD）を選びます。
13	HDD	HDDを選びます。
14	BD/DVDメニュー	トップメニュー／ディスクメニューを表示します。
15	BD/DVDトップメニュー	
21	←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。
26	入力切換	入力を切り換えます。

ブルーレイディスクプレーヤー／DVDプレーヤーを操作するには

ボタン	機能
5 メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
6 フラッシュ ⬅・	ジャンプで前に戻ります。
フラッシュ・➡	ジャンプで先に送ります。
7 ⏮/⏭	チャプターをスキップします。
8 ◀◀／▶▶	再生中のディスクの早戻し／早送りをします。
9 ▶（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
14 BD/DVDメニュー 15 BD/DVDトップメニュー	トップメニュー／ディスクメニューを表示します。
21 ←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。
26 入力切換	入力を切り換えます。

HDD／DVDコンボを操作するには

ボタン	機能
5 メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
6 フラッシュ ⬅・	ジャンプで前に戻ります。
フラッシュ・➡	ジャンプで先に送ります。
7 ⏮/⏭	チャプターをスキップします。
8 ◀◀／▶▶	再生中のディスクの早戻し／早送りをします。
9 ▶（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
12 DISC	DVDを選びます。
13 HDD	HDDを選びます。
14 BD/DVDメニュー 15 BD/DVDトップメニュー	トップメニュー／ディスクメニューを表示します。
21 ←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。
26 入力切換	入力を切り換えます。

衛星放送（CSデジタル）チューナーを操作するには

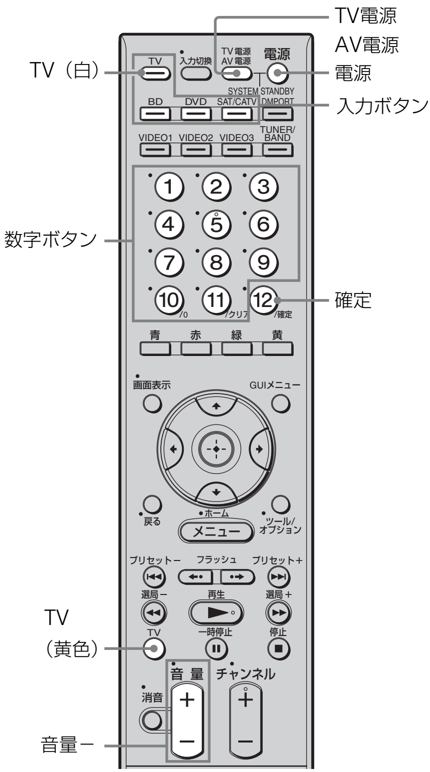
ボタン	機能
5 メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
11 番組表	番組表を表示します。
21 ←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。

ご注意

- 上記の説明は基本的な操作の一例です。つないでいる機器によっては操作できないか、または表とは異なった動作をする場合があります。

リモコンの入力ボタンに登録された機器を変更する

お使いの機器に合わせて、入力ボタンの設定を変更することができます。
例：ブルーレイディスクプレーヤーをDVD端子につないだとき、DVDボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるように設定します。
リモコンのTV（白）ボタンは、テレビ以外の機器に設定できません。



1 登録を変更したい入力ボタンを押しながら、TV（黄色）ボタンを押す。

TV（黄色）ボタンのランプが1秒おきに点滅し、リモコンの設定変更ができます。

ご注意
- 60秒間何も操作をしないと、設定モードを終了します。

2 数字ボタンを押して、機器とメーカー別の対応コードを入力（コードが複数ある場合は、そのうちの1つを入力）し、確定ボタンを押す。

対応コードについては、「対応コード」（83ページ）をご覧ください。
有効なコードが入力されると、TV（黄色）ボタンのランプが2回点滅し、設定モードが終了します。
有効でないコードが入力されると、TV（黄色）ボタンのランプが5回点滅し、設定モードが終了します。

3 手順1と2を繰り返し、他の機器を登録する。

設定できないときには

手順1でTV（黄色）ボタンのランプが点灯しないときは、リモコンの電池が弱くなっている場合があります。全て新しい電池に交換してください。

リモコンに登録した設定を消去するには

リモコンの音量－ボタンを押しながら、続けて電源ボタンを押し続け、最後にAV電源ボタンを押し続ける。
リモコンの設定がお買い上げ時の状態に戻ると、TV（黄色）ボタンのランプが3回点滅します。

機器・メーカー別の対応コード

以下の対応コードを使って他社製の機器や、初期設定のままでは操作できないソニー製機器を操作できるように設定します。それぞれの機器が受け付けるリモコン信号はモデルや年式によっても異なりますので、1つの機器に複数のコードが割り当てられている場合もあります。ある1つのコードを使っても設定できない場合は、別のコードを使って設定してみてください。

ご注意

- 対応コードは下三桁のみが有効です。
- 対応コードは、各メーカーの最新情報に基づいて決められています。ただし、機器によっては一部またはすべての対応コードに反応しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- 操作する機器によっては、本機の特定のボタンが機能しなくなる場合があります。

対応コード

複数のコードが割り当てられている場合は、お手持ちの機器が設定できる、いずれかのコードを使ってください。

ブルーレイディスクプレイヤー（レコーダー）の対応コード

メーカー	コード
SONY	310、311、312
PANASONIC	331、332、333
PIONEER	334
SHARP	459、460、461

DVDプレイヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403
BROKSONIC	424
DENON	405
HITACHI	416
JVC	415、423
MITSUBISHI	419
ORITRON	417
PANASONIC	406、408、425
PHILIPS	407
PIONEER	409、410
RCA	414
SAMSUNG	416、422
TOSHIBA	404、421
ZENITH	418、420

HDD/DVDコンボデッキ、DVDレコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403
HITACHI	441、442、443
JVC	444、445、446、447、459、460、461
MITSUBISHI	448、449
PANASONIC	450、451、452
PIONEER	453、454、455、456、457、458
SHARP	459、460、461
TOSHIBA	462、463、464

テレビの対応コード

メーカー	コード
SONY	501、502
AIWA	536
DAEWOO	515、544
FUNAI	548
HITACHI	503、513、514、515、519、544、557
JVC	516、552
LG/GOLDSTAR	503、515、544
MITSUBISHI/MGA	503、519、527、544
NEC	503、540、544、554
PANASONIC	524、553、559、572
PHILIPS	515、518、557
PIONEER	525、540、551、555
RCA/PROSCAN	510
SAMSUNG	503、515、544、557、562、563、569、574
SANYO	546、560
SHARP	535、550、577
TOSHIBA	535、540、541、551

次のページへつづく

ビデオデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	701、702、703、704、705、706
AIWA	710、750、757、758
AKAI	707、708、709、759
BLAUPUNKT	740
EMERSON	711、712、713、714、715、716、750
FISHER	717、718、719、720
GENERAL ELECTRIC(GE)	721、722、730
GOLDSTAR/LG	723、753
GRUNDING	724
HITACHI	722、725、729、741
ITT/NOKIA	717
JVC	726、727、728、736
MAGNAVOX	730、731、738
MITSUBISHI/MGA	732、733、734、735
NEC	736
PANASONIC	729、730、737、738、739、740
PHILIPS	729、730、731
PIONEER	729
RCA/PROSCAN	722、729、730、731、741、747
SAMSUNG	742、743、744、745
SANYO	717、720、746
SHARP	748、749
TELEFUNKEN	751、752
TOSHIBA	747、756

衛星放送チューナーの対応コード

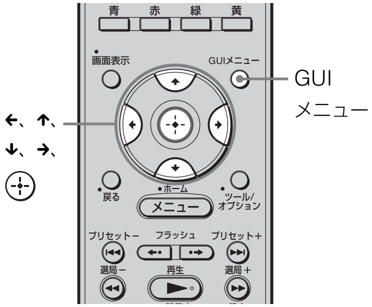
メーカー	コード
SONY	801、802、803、804、824、825、865
AMSTRAD	845、846
BskyB	862
GENERAL ELECTRIC(GE)	866
GRUNDING	859、860
HITACHI/BITA	868
HUGHES	867
HUMAX	846、847
JVC/Echostar/Dish Network	873
MITSUBISHI	872
NOKIA	851、853、854、864
PACE	848、849、850、852、862、863、864
PANASONIC	818、855
PHILIPS	856、857、858、859、860、864、874
RCA/PROSCAN	866、871
SAMSUNG	875
THOMSON	857、861、864、876
TOSHIBA	869、870

ケーブルボックスの対応コード

メーカー	コード
SONY	821、822、823
HAMLIN/REGAL	836、837、838、839、840
JERROLD	830、831
JERROLD/G.I./MOTOROLA	806、807、808、809、810、811、812、813、814
OAK	841、842、843
PANASONIC	816、826、832、833、834、835
PHILIPS	830、831
PIONEER	828、829
RCA	805
SCIENTIFIC ATLANTA	815、816、817、844
TOCOM/PHILIPS	830、831
ZENITH	826、827

スピーカーレベルを設定する

スピーカーとサブウーファーのレベルを設定することができます。



1 GUIメニューボタンを押す。

「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、[Settings]を選び、⊕または→を押す。

[Settings]メニューが表示されます。

3 ↑/↓を繰り返し押して、[Level]を選び、⊕を押す。

[Level]メニューが表示されます。

4 ↑/↓を繰り返し押して、項目を選び、⊕または→を押す。

- [Center Level]：
  スピーカーのレベルを調節します。
- [Subwoofer Level]：
  サブウーファーのレベルを調節します。
- [D. Range Comp]：
  サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。

5 ↑/↓を繰り返し押して、お好みの設定を選び、⊕または→を押す。



[Center Level]と[Subwoofer Level]は、[-6dB]から[+6dB]の範囲で1 dB単位で設定できます。お買い上げ時の設定は[0dB]です。

[D. Range Comp]は、次の設定ができます。

- [MAX]：信号の幅を最大限に圧縮します。
- [STD]：制作者が意図したようなダイナミックレンジで音声を再現します。
- [OFF]：信号の幅は圧縮されません。

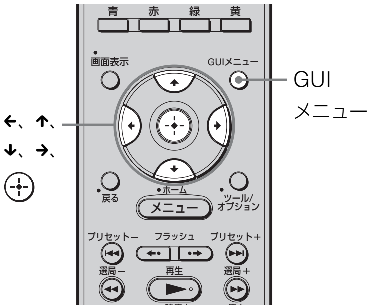
6 GUIメニューボタンを押す。

GUIメニューを終了します。

映像の遅れに音声を合わせる

（A/V Sync）

映像が音声よりも遅れている場合、この機能で音声を遅らせることができます。



1 GUIメニューボタンを押す。

「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、[Settings]を選び、⊕または→を押す。

[Settings]メニューが表示されます。

3 ↑/↓を繰り返し押して、[Audio]を選び、⊕を押す。

[Audio]メニューが表示されます。

4 ↑/↓を繰り返し押して、[A/V Sync]を選び、⊕または→を押す。

5 ↑/↓を繰り返し押して、設定を選び、⊕を押す。

- [0 ms]： A/V Sync機能を使いません。
- [10 ms]～[200 ms]： A/V Sync機能を使って、[10 ms]～[200 ms]の範囲で、10 ms単位で音声と映像のずれを調節します。

6 GUIメニューボタンを押す。

GUIメニューを終了します。

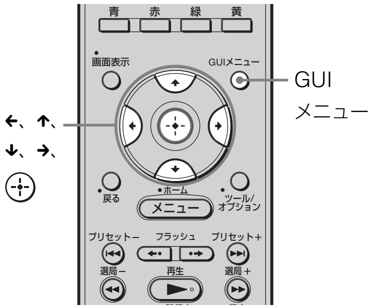
ご注意

- A/V SYNC機能を使っても、音声と映像を完全に合わせることができない場合もあります。
- A/V SYNC機能は同軸入力、光入力およびHDMI入力のDolby Digital、DTS、MPEG2-AAC、リニアPCM（2ch）に働きます。

AAC（2ヶ国語放送）を楽しむ

（Dual Mono）

AACとは、BSデジタル放送や地上波デジタル放送で採用されている音声方式です。
AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。
BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力設定」などで設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご確認ください。
以上の準備が整った上で、次の操作を行ってください。



1 **GUIメニューボタンを押す。**
「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 **↑/↓を繰り返し押して、[Settings]を選び、⊕または→を押す。**
[Settings]メニューが表示されます。

3 **↑/↓を繰り返し押して、[Audio]を選び、⊕を押す。**
[Audio]メニューが表示されます。

4 **↑/↓を繰り返し押して、[Dual Mono]を選び、⊕または→を押す。**

5 **↑/↓を繰り返し押して、設定を選ぶ。**
- [Main/Sub]（主／副）:
  左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。
- [Main]（主音声）:
  主音声のみを再生します。
- [Sub]（副音声）:
  副音声のみを再生します。

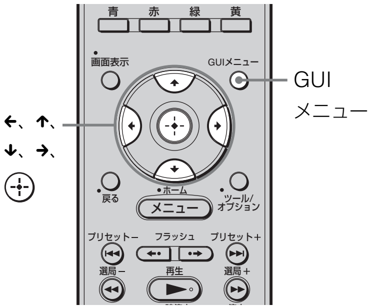
6 **GUIメニューボタンを押す。**
GUIメニューを終了します。

音声入力端子に入力ファンクションを割り当てる

（Audio Assign）

本機の“TV音声入力割り当て可能”端子を使用していない場合、アナログ信号を持つ音声入力を、VIDEO 2のファンクションに割り当てることができます。
アナログ音声出力端子がある機器の音声ソースを出力するには、

- 機器のアナログ音声出力端子と本機の“TV音声入力割り当て可能”端子をつなぎます。
- VIDEO 2のファンクションを割り当てます。



1 GUIメニューボタンを押す。

「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、[Settings]を選び、⊕または→を押す。

[Settings]メニューが表示されます。

3 ↑/↓を繰り返し押して、[Audio]を選び、⊕を押す。

[Audio]メニューが表示されます。

4 ↑/↓を繰り返し押して、[Audio Assign]を選び、⊕または→を押す。

5 ↑/↓を押して、[VIDEO 2]を選び、⊕を押す。

“TV音声入力割り当て可能”端子にVIDEO 2ファンクションが割り当てられます。
お買い上げ時の設定は[TV]です。“TV音声入力割り当て可能”端子はTVファンクションに割り当てられています。

6 GUIメニューボタンを押す。

GUIメニューを終了します。

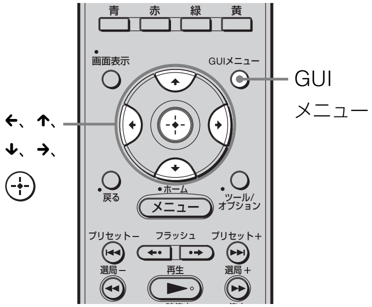
ご注意

- オーディオ機器の映像を出力したとき、音声が出なくなることがあります。この場合、次の操作を行ってください。
  - 本機の“TV音声入力割り当て可能”端子につないだ機器と、ファンクションに割り当てた機器が同じかどうか確認する。
  - もう一度ファンクションを割り当てる。
- 他の入力に割り当てられたアナログ音声入力は、もとの入力で使うことはできません。
- アナログ音声入力を、「TV」または「VIDEO 2」ファンクション以外に割り当てることはできません。

アナログ映像信号を変換する

（Resolution）

アナログ映像信号の解像度を、[Video]設定メニューで変換することができます。この機能はHDMI入力信号には設定できません。解像度については、「映像信号をアップコンバートする」（42ページ）をご覧ください。



1 GUIメニューボタンを押す。

「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、[Settings]を選び、⊕または→を押す。

[Settings]メニューが表示されます。

3 ↑/↓を繰り返し押して、[Video]を選び、⊕を押す。

[Resolution]が表示されます。

4 ⊕または→を押す。

設定値が表示されます。

5 ↑/↓を繰り返し押して、設定を選び、⊕を押す。

- [AUTO]： 通常はこの設定を選びます。本機はテレビが対応できるもっとも高い解像度の信号を出力します。画像フォーマットがお好みに合わない場合は、他の設定に変えてみてください。
- [480/576p]： 映像信号を480p/576pで出力します。
- [720p]： 映像信号を720pで出力します。
- [1080i]： 映像信号を1080iで出力します。
- [1080p]： 映像信号を1080pで出力します。

詳しくは「映像信号をアップコンバートする」（42ページ）をご覧ください。

6 GUIメニューボタンを押す。

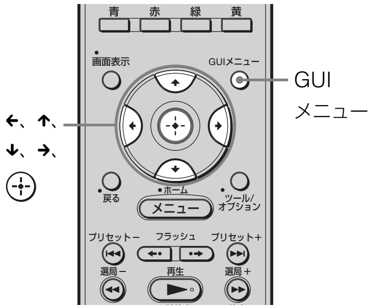
GUIメニューを終了します。

設定

HDMI映像をさらに高画質で見る

（Video Direct）

本機はHDMI入力端子（BD入力、DVD入力、SAT/CATV入力）からの映像入力信号をHDMI TV出力端子に直接出力できます。



1 GUIメニューボタンを押す。

「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、[Settings]を選び、⊕または→を押す。

[Settings]メニューが表示されます。

3 ↑/↓を繰り返し押して、[HDMI]を選び、⊕を押す。

[HDMI]メニューが表示されます。

4 ↑/↓を繰り返し押して、[Video Direct]を選び、⊕または→を押す。

[Video Direct]メニューが表示されます。

5 ↑/↓を押して設定を選び、⊕を押す。

- [OFF]：　HDMI入力端子（BD入力、DVD入力、SAT/CATV入力）からの入力信号が本機のビデオプロセッサーを通して出力されます。
- [ON]：　HDMI入力端子（BD入力、DVD入力、SAT/CATV入力）からの入力信号が直接出力されます。より高画質な映像を表現できます。

6 GUIメニューボタンを押す。

GUIメニューを終了します。

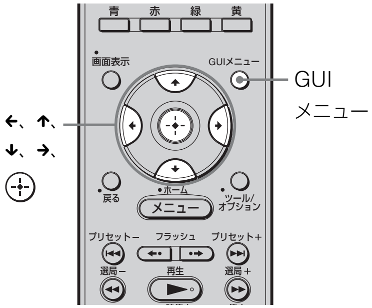
ご注意

- Video Direct機能を[ON]（入）にしているときは、音量調整バーとファンクション情報はテレビ画面に表示されません。

本体表示の明るさを調節する

（Dimmer）

表示窓の明るさを2段階で調節することができます。



1 GUIメニューボタンを押す。

「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、[Settings]を選び、⊕または→を押す。

[Settings]メニューが表示されます。

3 ↑/↓を繰り返し押して、[System]を選び、⊕を押す。

[System]メニューが表示されます。

4 ↑/↓を繰り返し押して、[Dimmer]を選び、⊕または→を押す。

5 ↑/↓を繰り返し押して、設定を選び、⊕を押す。

- [ON]：　表示窓の明るさが暗くなります。
- [OFF]：　通常状態。

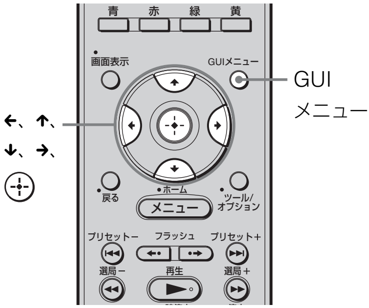
6 GUIメニューボタンを押す。

GUIメニューを終了します。

表示窓の設定を変える

（Display）

表示窓の設定を変更することができます。



1 GUIメニューボタンを押す。

「GUI MENU」が本機の表示窓に表示され、テレビ画面にGUIメニューが表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して、[Settings]を選び、⊕または→を押す。

[Settings]メニューが表示されます。

3 ↑/↓を繰り返し押して、[System]を選び、⊕を押す。

[System]メニューが表示されます。

4 ↑/↓を繰り返し押して、[Display]を選び、⊕または→を押す。

5 ↑/↓を押して、設定を選び、⊕を押す。

- [ON]：　常時、表示を点灯します。
- [OFF]：　一定時間、表示を点灯します。

ご注意

- [Display]で「OFF」を選んでいても、プロテクト状態のときは常時表示を点灯します。

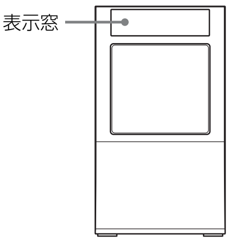
6 GUIメニューボタンを押す。

GUIメニューを終了します。

システムメニューの設定をする

システムメニューを使う

リモコンのシステムメニューボタンから、次の設定ができます。
本機の表示窓を確認しながら、設定してください。



お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- LEVEL
  - CNT LEVEL — –6 …0 ...+6
  - SW LEVEL — –6 …0 ...+6
  - AUDIO DRC — MAX / STD / OFF
- TONE
  - BASS — –6 …0 ...+6
  - TREBLE — –6 …0 ...+6
- AUDIO
  - A/V SYNC[1] — 0ms, 10ms,… 200ms
  - DUAL MONO — MAIN/SUB / MAIN / SUB
  - A. ASSIGN — TV / VIDEO 2
  - NIGHT MODE — ON / OFF
- VIDEO
  - RESOLUTION[2] — AUTO / 480/576p / 720p / 1080i / 1080p
- SET HDMI[3]
  - CTRL: HDMI — ON / OFF
  - VOL LIMIT[4] — MAX, 49, 48,....2, 1, MIN
  - SOUND FIELD[4] — AUTO / MANUAL
  - PASS THRU[4] — AUTO / ON / OFF
  - V. DIRECT — ON / OFF
- SYSTEM
  - DIMMER — ON / OFF
  - DISPLAY — ON / OFF
  - SLEEP — OFF, 10M, 20M, ...90M

1) この設定は光または同軸の入力信号のみ設定できます。
2) HDMI入力経由の映像がテレビに出ているときは「RESOLUTION」の設定はできません。
3) 詳しくは「ブラビアリンクの準備をする」(65ページ) をご覧ください。
4) この設定は「CTRL: HDMI」が「ON」のときに表示されます。

1 システムメニューボタンを押して、システムメニューを表示する。

2 ←/↑/↓/→を繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

3 システムメニューボタンを押して、システムメニュー表示を消す。

「SLEEP」以外の設定はGUIメニューからもできます。詳しくは「準備6：GUI (Graphical User Interface)を使って本機を操作する」(46ページ) をご覧ください。

設定

次のページへつづく

システムメニューとGUIメニューの対応項目については、「メニュー一覧」（103ページ）をご覧ください。

スリープタイマーを使う

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本機の電源を切ることができます。時間は10分から90分の範囲で10分間隔で設定することができます。



1 システムメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して、「SYSTEM」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「SLEEP」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して設定時間を選ぶ。

設定時間は次のように切り替わります。

OFF ←→ 10M... ←→ 90M ←→ OFF...

5 システムメニューボタンを押す。

システムメニューを終了します。

ご注意

- スリープタイマーは本機のみ適用されます。本機につないでいるテレビや他の機器には使えません。

その他

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

全般

電源が入らない

→ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

本機の表示窓に「PROTECTOR」と「PUSH POWER」が交互に表示される

I/⏻（電源）ボタンを押して電源を切り、「STANDBY」が消えたら以下の項目を確認する。

→ 本機の通風孔がふさがっていないか確認する。
上記の項目を点検し、電源を入れる。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

Dolby DigitalやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない

→ ブルーレイディスクやDVDなどを再生しているときは、Dolby DigitalやDTSフォーマットの音声を選んでいるか確認する。

→ つないだ機器のオーディオ設定（音声出力設定）を確認する。

サラウンド効果が得られない

→ 他の機器の入力ボタン（TV、BD、DVD、SAT/CATV、DMPORT、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、TUNER/BAND）を押し、一度入力を切り換えてから、再生したい機器の入力ボタンを押して、本機に表示される音声信号の種類を確認する。音声信号の種類が「2.0ch」や「1.0ch」と表示されたときは、ステレオまたはモノラル音声のため、サラウンド成分が含まれていません。音声信号の種類が「5.1ch」などと表示されたときは、マルチチャンネル音声ですが、番組やディスクによっては、サラウンド成分が少ない場合があります。

→ サウンドフィールドの設定と入力信号によっては、サラウンド処理が働かないことがあります（61ページ）。

スピーカーから音が出ない、または音が小さい

→ 音量＋ボタンを押し、音量を確認する。

→ 消音ボタンや音量＋ボタンを押して、消音機能を解除する。

→ サウンドフィールドボタンを押して、現在のサウンドフィールドを確認する。

→ 音源によってはスピーカーの音響効果が、はっきりと目立たない場合があります。

→ スピーカーコードが正しくつながれているか確認する（31ページ）。

サブウーファーの音が出ない

→ ディスクによっては、スピーカーからしか音が出ないものがあります。

テレビの音声が映像より遅れる

→ [A/V Sync]が[10 ms]から[200 ms]のあいだに設定されているときは、[A/V Sync]を[0 ms]に設定する。

つないだ機器

どの機器を選んでも音が出ない、または音が小さい

→ 本機とそれぞれの機器が正しくつながれているか確認する。

→ 本機とつないだ機器の電源がオンになっているか確認する。

選んだ機器から音が出ない

→ つないだ機器が、本機の音声入力端子に正しくつながれているか確認する。

→ つないだ機器と本機のコードが、端子の奥までしっかり差し込まれているか確認する。

→ 本機でつないだ機器が正しく選ばれているか確認する。

→ 音量が最大のときに、ディスクをつづき再生すると、音が出ないことがあります。このときは、音量を小さくしてから、本機の電源を切り、電源を入れてください。

音が途切れたり、ノイズが出る

→ 「本機で対応するデジタル入力フォーマット」を確認する（100ページ）。

テレビ画面に映像が出ない、または明瞭でない

→ 本機でテレビが正しく選ばれているか確認する。

→ テレビをビデオ入力などの該当する入力モードに設定する。

→ テレビをオーディオ機器から離す。

→ 対応フォーマット以外の映像信号が入力されると、画像が乱れることがあります。

→ 解像度の設定が正しくない可能性があります。テレビに表示される映像が明瞭になるように、システムメニューの「RESOLUTION」で解像度設定を変えてください（93ページ）。

→ HDMI接続している再生機器が、映像の出力解像度を480iまたは576iに設定している場合、GUIメニューが正しく表示されません。再生機器の出力解像度を480pまたは576p以上に調節してください。

HDMIに入力しているソースの映像が本機につないだテレビから出ない、乱れる、または途切れる

→ HDMI接続を確認する。

→ 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

→ High Speed HDMIケーブルをご利用下さい。Standard HDMIケーブルの場合、1080pやDeep Colorの映像が正しく表示できない場合があります。

→ HDMI端子につないだ機器によっては、映像が乱れることがあります。その場合は、[HDMI]メニューの[Video Direct]を[ON]にしてください。

テレビ画面に映像は出るが、音声が出ない

→ 音声入力端子の割り当てが正しいか確認する（88ページ）。

HDMI機器制御

“ブラビアリンク”を使用中、次のような問題が発生した場合は、以下の方法をお試しください。

HDMI機器制御機能が働かない

→ HDMI接続を確認する（33ページ）。

→ GUIメニューで[Control for HDMI]が[ON]に設定されていることを確認する。

→ つないだ機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認する。

→ つないだ機器のHDMI機器制御の設定を確認する。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

→ HDMI接続を変更したときや、本機の電源コードを抜き差ししたとき、また、停電があったときは、「ブラビアリンクの準備をする」（65ページ）の手順を再度行ってください。

→ HDMI機器制御機能に対応していない機器をテレビにつなぎ、その機器の入力をテレビで選んだ場合、本機が正しく動作しないことがあります。

システムオーディオコントロール機能を使っているときに、本機とテレビの両方から音が出ない

→ 本機またはテレビの音量を確認する。

→ 本機の入力が正しく選択されているかを確認する。

次のページへつづく

システムオーディオコントロール機能を使っているときに、本機とテレビの両方から音が出る

- HDMI機器制御機能がオフ（切）のときや、選んだ機器がHDMI機器制御機能に対応していないときは、本機またはテレビを消音する。

電源オフ連動機能が働かない

- テレビの電源を切ると、つないだ機器の電源が自動的に切れるように、テレビの設定を変更してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

テレビに映像が出ない

- 本機のHDMI入力端子とHDMI出力端子を逆につないでいないか、確認する。

本機が電源スタンバイのとき、テレビに映像と音声が出ない

- 本機が電源スタンバイのときに、テレビへ出力される映像と音声は、本機の電源を切る前に最後に選ばれていたHDMI入力の信号です。視聴したい機器が、最後に選ばれていたHDMI入力と異なる場合は、機器の再生を開始して、ワンタッチプレイを実行するか、本機の電源を入れてHDMI入力を選び直してください。
- “ブラビアリンク”に対応していない機器を接続している場合は、GUIメニューの[HDMI Pass Through]が[ON]に設定されているか確認する（71ページ）。

その他

リモコンが機能しない

- 本機とスピーカーのリモコン端子に、それぞれリモコンのコネクターをつないでいるか確認する。
- リモコンを本機の表示窓またはスピーカーのリモコン受光部（R）に向けて操作する。
- リモコンとリモコン受光部との間に障害物を置かない。
- 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り替える。
- 本機のリモコンの入力ボタン（TV、BD、DVD、SAT/CATV）を押して、操作したい機器を選ぶ。

音声の出力方法をテレビのスピーカーから本機のスピーカーに変更したときに、音量が下がる

- 音量制限機能が働いています。詳しくは、「音量制限機能を使う」（68ページ）をご覧ください。

これらの処置をしても正常に動作しないときは―リセット

本機のボタンを使って、下記の手順で操作します。

1. I/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れる。
2. 本機のINPUT SELECTORボタン、VOLUME－ボタン、I/⏻（電源）ボタンを同時に押す。

   表示窓に「COLD RESET」と表示され、システムメニューやサウンドフィールドなどがお買い上げ時の状態に戻ります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」（96ページ）の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは、保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ホームシアターシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-CT500
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカー名と型番：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

本機で対応するデジタル入力フォーマット

本機で対応するデジタル入力フォーマットは以下のとおりです。

フォーマット	対応／非対応
Dolby Digital	○
DTS	○
MPEG2-AAC	○
リニアPCM（2ch）*	○
リニアPCM（5.1ch、7.1ch）*（HDMIのみ）	○
Dolby Digital Plus	×
Dolby True HD	×
DTS-HD	×

* リニアPCMは、48 kHz以下のサンプリング周波数に対応します。

アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、JEITA*）
フロント部：100 W + 100 W、4 Ω
センター部**：100 W、4 Ω
サブウーファー部：100 W、4Ω、100 Hz

* JEITA（電子情報技術産業協会）による測定値です。

**サウンドフィールドの設定によっては出力がない場合があります。

入力端子（アナログ）
TV、VIDEO 1　入力感度：550 mV
インピーダンス：33 kΩ
入力端子（デジタル）
TV、VIDEO 2　光
VIDEO 3　同軸、光

HDMI部

コネクター　HDMI™コネクター
ビデオ入出力　BD、DVD、SAT/CATV：
640 × 480p、60 Hz
720 × 480p、59.94/60 Hz
1280 × 720p、59.94/60 Hz
1920 × 1080i、59.94/60 Hz
1920 × 1080p、59.94/60 Hz
720 × 576p、50 Hz
1280 × 720p、50 Hz
1920 × 1080i、50 Hz
1920 × 1080p、50 Hz
1920 × 1080p、24 Hz
オーディオ入力
BD、DVD、SAT/CATV：
リニアPCM (最大7.1ch)／Dolby Digital／DTS／AAC

チューナー部

回路方式　PLLデジタル周波数シンセサイザークォーツロック方式
FMチューナー部
受信周波数　76.0－90.0 MHz（100 kHz間隔）
アンテナ　ワイヤーアンテナ 75 Ω、不平衡型
中間周波数　10.7 MHz
AMチューナー部
受信周波数　531－1,602 kHz（9 kHz間隔）
アンテナ　ループアンテナ
中間周波数　450 kHz

映像部

入力　ビデオ：1 Vp-p 75 Ω
コンポーネントビデオ：
Y：1 Vp-p 75 Ω
CB、CR：0.7 Vp-p 75 Ω

スピーカー（SS-CT500）

形式　フルレンジスピーカーシステム
バスレフ型（フロントスピーカー部分）、アコースティックサスペンション型（センタースピーカー部分）
使用スピーカー
50 mmコーン型
定格インピーダンス
4 Ω
最大外形寸法（約）
957 × 90 × 51 mm
（幅／高さ／奥行き）
質量（約）　1.9 kg
スピーカーコード
3 m

サブウーファー（SA-WCT500）

形式　サブウーファーシステム
バスレフ型

使用スピーカー
130 mmコーン型

定格インピーダンス
4 Ω

最大外形寸法（約）
212 × 374 × 364 mm
（幅／高さ／奥行き）

質量（約）　9.1 kg

WS-CT500EB

取り付け金具A

最大外形寸法（約）
286 × 179 × 60 mm
（幅／高さ／奥行き）

質量（約）　1.3 kg

取り付け金具B

最大外形寸法（約）
286 × 179 × 23 mm
（幅／高さ／奥行き）

質量（約）　0.83 kg

リアカバー

最大外形寸法（約）
294 × 185 × 67 mm
（幅／高さ／奥行き）

質量（約）　0.56 kg

一般

電源　AC 100 V、50/60 Hz

消費電力　電気用品安全法による表示：
110 W
HDMI機器制御 がオフ（切）のとき（スタンバイ状態のとき）：
0.3 W以下

電源出力
（デジタルメディアポート）
DC OUT：5 V、700 mA

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語解説

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは2チャンネルソースを5チャンネルで全帯域再生する。それを行うのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコーダである。

AAC

BSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現する。

Deep Color

HDMI端子内を通る信号の色深度を高めたビデオ信号。従来のHDMI端子では、1ピクセル（画素）で表現可能な色数は24ビット（16,777,216色）だが、Deep Colorに対応した場合、より高い36ビットなどに対応することが可能になる。多ビット化により色の濃さの階調をより細かく表現できるため、連続した色の変化をなめらかに表すことができる。

次のページへつづく

DTS
DTS社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）
パソコン用ディスプレイなどで使用されているDVI（Digital Visual Interface）規格を拡張した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格。映像と音声を1つのケーブルで、信号がデジタルのまま、劣化することなく伝送できる。デジタル画像信号の暗号化記述を使用した著作権保護技術であるHDCPにも対応している。

PCM
アナログ音声をデジタル音声に変換する方式。Pulse Code Modulation（パルス・コード・モジュレーション）の略で、手軽にデジタル音声を楽しむことができる。

S-Force PRO Front Surround
ソニーがこれまで蓄積してきた膨大な音響データを解析し、独自のDSP技術を加えて開発したフロントサラウンドの技術。音像の距離感、空間性をより忠実に再現することが可能となり、後方にスピーカーを置くことなく、前方のスピーカーだけで広がりのあるサラウンドを楽しむことができる。

S-Master
ソニーが独自に開発したデジタルアンプ技術。従来のアナログアンプに比べ、原理的にゼロクロス歪みが発生しない点をはじめ、高効率で発熱が少ないため、小型化が容易であるなど、数々の特長を備えている。

x.v.Color
“x.v.Color”とは、xvYCC規格に対応し、従来以上の広色域表現が可能な機器に付す名称としてソニーが提案している商標で、xvYCC規格とは、ビデオ映像信号の色空間の国際規格のひとつ。現行の放送などで使われている規格より広い色彩が表現できる。今までは表現できなかった鮮やかな花の色や、南国の海の美しい青緑色などを、より忠実に表現することが可能になる。

メニュー一覧

本機の表示窓に表示されるメニュー項目はGUI表示されるメニュー項目と対応しています。

メニュー	表示窓の表示	GUIの表示	ページ
LEVEL	CNT LEVEL	Center Level	85
	SW LEVEL	Subwoofer Level	85
	AUDIO DRC	D. Range Comp	85
SURROUND	–	Surround	61
TONE	BASS	Bass Level	63
	TREBLE	Treble Level	63
AUDIO	A/V SYNC	A/V Sync	86
	DUAL MONO	Dual Mono	87
	A. ASSIGN	Audio Assign	88
	NIGHT MODE	Night Mode	63
VIDEO	RESOLUTION	Resolution	89
SET HDMI	CTRL: HDMI	Control for HDMI	65
	VOL LIMIT	Volume Limit	68
	SOUND FIELD	Sound Field	68
	PASS THRU	HDMI Pass Through	71
	V. DIRECT	Video Direct	90
SYSTEM	DIMMER	Dimmer	91
	DISPLAY	Display	92
	SLEEP	–	94

索引

あ行

さ行

た行

は行

ま行

ら行

A-Z

メニュー索引

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口	**修理相談窓口**
フリーダイヤル ··········0120-333-020 携帯電話·PHS·一部のIP電話 ··········0466-31-2511	フリーダイヤル ···········0120-222-330 携帯電話·PHS·一部のIP電話 ···········0466-31-2531 ※取扱説明書·リモコン等の購入相談は こちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「306」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Sony Corporation Printed in Malaysia

* 4 1 4 3 8 3 3 0 1 * (4)